

2012—2013

ワイズメンズクラブ国際協会

西日本区報

JAPAN WEST REGION

BULLETIN 第2号 通巻49号 / 2013. 2 発行

西日本区理事主題 Let Y'smen Light Shine before Others, In the club, In the community, In the world.
「先頭に立ってワイズの光を輝かそうクラブで、地域で、国際社会で」

国際会長主題 Be the light of the world. 「世を照らす光となろう」

アジア会長主題 Years bring wisdom. 「歳月はY'sをワイズ(賢者)にする」



先頭に立ってワイズメンの光を輝かそう

クラブで、地域で、国際社会で

Let Y'smen Light Shine before Others

in the club. in the community. in the world

2012-2013 西日本区理事 成瀬 晃三

2012-2013 Regional Director, Japan West Region

Kozo Naruse

折り返し点に立って

今期の半分が過ぎ、折り返し点となりました。西日本区大会の後、各事業委員会が持たれ事業活動がスタートしました。またノルウェーのスタバングルで国際大会が開催され、西日本区からたくさんの方に参加して頂きました。前半のビッグイベントは部会です。前期及び前々期の2年間、勉強のため理事に同行し部会を回ったので、都合3回廻ったこととなります。しかし理事として廻る今回は責任の重さを強く感じ緊張しました。特に感じたことは9つの部毎に特徴があり、若者へのアプローチの仕方、会員同士の懇親の仕方、奉仕活動の仕方がそれぞれ違うことでした。このことを考えると、皆さんが自分のクラブの中だけに留まらず、部会で他のクラブのことを知り、区大会で他の部を知り、国際大会で他の区や国のことを知って頂けば、自クラブの発展に大きく貢献して頂けると確信します。

さて「若者」「現場」「国際」をテーマにしてきましたが、部会で各部長様が私の意図を理解し、活動を進めて下さっていることが分かりました。リーダーを前面に出した部会が多くありました。Yサ・ユース事業からもノルウェーの国際大会と並行して開催されたユースコンボケーションへの参加者8人、交流事業に関連しますがSTEPとして四日市クラブの大西慎太郎コメットをケニアへ派遣など「若者」「国際」

Standing at the turnaround point

The first-half of the term of 2012-2013 has passed and we now stand at the turnaround point. Right after the 15th Japan West Regional Convention, committee meetings of the seven service programs of JWR were convened, and the programs and projects of the new term were launched. From August 2nd to 5th the 70th International Convention was held in Stavanger, Norway and many Y's men, menettes and youths from JWR attended it.

The major events of the first-half of the term were the district meetings. Over the past two legislative terms I attended all the district meetings of JWR, accompanying the then Regional Directors respectively to prepare myself for the forthcoming post. That means I attended each of nine district meetings three times in total. However, I felt much more responsibility as the incumbent RD to attend them again this time. What impressed me most was the fact that each district had its unique programs and activities: its way of treating youths, its way of promoting mutual friendship among the members, its way of carrying out volunteer activities were all different and unique.

に跨る事業が行われました。昨年はタイの大洪水、北九州での洪水被害、そしてフィリピンにおける台風被害と自然災害がたて続けにありました。これらに対しその地のワイズメンが援助の手を差し伸べ西日本区からも援助しました。京都のリトセン洪水被害に対しては京都部が一丸となって復興に力を注がれました。

各事業については、事業主任に事業通信を発信することを義務付けています。全ての事業について事業通信が発信されており、発信された都度西日本区ホームページにUPしておりますのでご覧下さい。また皆様にお知らせしなければならないと考えた事項は、毎月発信します理事通信に記載しております。各クラブのブリテンを拝見しますと理事通信の内容を転載して頂いているところもあり感謝いたします。理事通信もホームページにUPしておりますのでご覧になって下さい。

今期は国際関係で2回の投票をお願い致しました。一つは国際議員数を減ずることと若い人を議員に加えるという国際憲法に関わる事項でした。次に国際会長選出と、我々のクラブ名称の変更に関する投票でした。我が西日本区から大阪土佐堀クラブの岡野泰和さんが国際議員に選出され、来期からアジアAPに就任れます。西日本区はアジアエリアで最も大きい区です。皆様にそれなりの責任が掛かってきます。

西日本区においても年次代議員会で承認された組織変更を行おうと準備しております。次期がその過渡期になり、次々期から変更した組織に完全移行しようと準備中であります。

東日本大震災の支援に関しては、各クラブにおいても支援活動して頂いておりますが、区としても皆様から総額200万円献金して頂き、盛岡YMCAの宮古ボランティアセンターや仙台YMCAへ支援して行こうとしております。復興には時間が掛かります、どうか引き続きご支援頂きますよう宜しくお願い致します。

後半において最後の飛躍とまとめがあります。皆様のご支援を得て全うしたくご協力下さい。そして次期へスムーズに引継がなければなりません。LDの皆様のご協力により進めて行きます。

大きくジャンプしてフィニッシュをきっちり決めましょう。

In the light of these, if you don't confine yourself to your own club and attend a district meeting, you will be able to learn a lot about other clubs. If you attend a regional convention, you will be able to learn a lot about other districts, too. By the same token, if you attend an international convention, you will be able to learn not only about other districts but also about other countries, which in turn will contribute greatly to the development of your club.

"Youth", "On-site", "International" are the three key words related to my RD theme. By attending the district meetings, I realized that all of the district governors have been carrying out their programs and activities, taking my intention into consideration. In fact, many districts highlighted the activities related to youth leaders. With the financial assistance of YMCA Service and Youth Program, eight youths attended the Youth Convocation held alongside the International Convention in Norway. As for Exchange Program, Shintaro Onishi, a son of Hiroaki Onishi of Yokkaichi Club, was sent to Kenya through STEP. On the other hand, a series of natural disasters occurred one after another last year; the disastrous flood in Thailand, the flood damage in Kitakyushu, and the typhoon damage in the Philippines. To cope with the disasters, not only local Y's men but also Y's men in Japan West Region reached out a helping hand to the suffers without delay. With respect to the damage done to Kyoto Retreat Center, all the clubs in Kyoto District cooperated as one to help reconstruct the center.

Regarding the seven Service Programs, all of their directors are required to send their service program reports when necessary. When a program report is sent, it is also uploaded unto the homepage of Japan West Region and is readily accessible. Other important news items to be informed of you are carried in a monthly RD newsletter. I am thankful for reprinting some articles from the RD newsletter in your club bulletins. RD newsletters are also uploaded unto the homepage of JWR for your information.

In this term I asked all the clubs of JWR to cast a vote twice regarding the revision of the International Constitution of Y's Men International : the first vote was on the reduction of International Council Members from 21 to 15 in which two young members are to be included. The second vote was on the election of 2013-2014 International President and the change of our association's name. Mr. Yasukazu Okano of Tosabori Club was elected as an International Council Member and will assume Asia Area President starting next legislative term. JWR is the greatest region in Asia Area, which imposes a proportionately heavy responsibility on us as Y's men.

The restructuring of the existing system of service programs approved in the annual general meeting of representatives of JWR is on its way. The next legislative term will be a transitional period and in the term of 2014-2015 the renewed system of service programs will start operating in full swing.

As for relief activities for the Great East Japan

Earthquake, in addition to the efforts being made by respective clubs, JWR has collected a total of 2 million yen from its members. The contributions will be sent to the Miyako Volunteer Center of Morioka YMCA and Sendai YMCA. However, the road to full reconstruction of the disaster- stricken areas is still long and thorny. I, therefore, call on every Y's man of JWR for his/her lasting support for the sufferers of the disaster.

The second half of this term is as important as the first one in that all Y's men expect to see a leap forward in our movement before I round off my term of service as RD of JWR. I would like to accomplish my mission with your support and dedication which are indispensable for the smooth transition of the administration and programs of JWR to the next term. I ask LD members for their cooperation to make it possible.

Let's make a leap forward to finish off beautifully.



2012-2013年度西日本区第2回役員会

ご あ い さ つ



ワイズの輪は国際で！

次期理事 高瀬 稔彦
(岩国みなみ)

『台湾は、大丈夫だったですか?』RDE(次期理事)トレーニングから帰国した私をみんなが心配そうに尋ねた。英語コンプレックスの私は出掛ける前から、理事方針発表やスピーチ、出席者との会話に不安感が先に立って『おなか痛い!』と周囲に不安を漏らしていました。でも帰国第一声は『行ってよかった! 感激した!』と自然と口をついてでました。ワイズメンズクラブは、素晴らしい! と心底思いました。

トレーニングに行ったのだから、研修のことをまず話さないといけません。ASD - LTOD(リーダーシップトレーニングの地域事業主任)を務めるシンガポールの王鏡遠(通称エドワード)さんの熱のこもったレクチャーは圧巻でした。タイプは違うけれど、京都パレスクラブの大野嘉宏ワイズの卓話と同じエネルギーがみなぎる言葉で、聴衆が引き込まれるような力強い、自分もなにかしようと背中を押してくれるような研修でした。

旅費さえ負担すれば RDE でなくとも誰が来てもいいんだよとのお言葉に、ぜひ次の機会には西日本区リーダーシップ開発委員会のメンバーに参加してもらおうかなと真剣に考えています。

息の詰まる研修会のあとの晩餐会は、おもいっきり楽しめる懇親会が準備されていました。特に研修会2日目は、台湾北区の合同部会にご招待いただきました。



英語と同じく警戒していたのが、中華式乾杯! たまたま着いた席が、到着時に空港までお迎えに来てくださ

た新北市大橋国際聯青社(TAIPEI BRIDGES CLUB)の呉耀澤(通称ジョナサン)さんのホームクラブ。わたしの通訳で同行してくださった東広島クラブの谷本久美子メネットが旧知の劉清武(通称ジミー)さんのクラブでもあり、着席後すぐに打ち解けることができました。積極的に会話に応じてくださるクラブの皆さんの歓待ぶりにボルテージは最高潮に。わたしから乾杯!!とコールして、そのあとは大橋クラブのメンバーひとり一人と次々に乾杯の嵐。食後に東日本区次期理事の渡辺喜代美さん(十勝クラブ)と谷本さんと買い物に行こうと誘っておいで、勝手に自沈してしまいました。



さらに気を良くして、韓国区の次期理事からメダルを交換しようと散々持ちかけられた次々期理事就任時に元国際会長の藤井寛敏さんから頂戴したメダルをジョナサンさんにプレゼントしました。ほんとうに気持ちのよい人たちばかりでした。

なるほど、自分を研鑽させたいと思ったときには、まず行動が先決ですね。成瀬晃三理事の提唱される若者・国際・現場は、なるほどここにもありました。

『こころを求めて例会に至り、境地を得て例会を去る』の本質をあらためて学んだ RDE トレーニングでした。貴重な機会を提供してくださった西日本区の皆様から感謝いたします。





ワイズの未来に 向かって前進

直前理事 浅岡 徹夫
(近江八幡)

早いもので2012年6月に長浜で成瀬晃三理事にバトンタッチしてから半年以上が過ぎて新しい年を迎えました。今年度の活動も順調に進められ、早くも1月には次期役員研修会が、3月に次期会長・主査研修会が実施されます。2012年を振り返って見ると、日本もアメリカも中国も韓国も、国のトップリーダーが選ばれる大きな変化の年でしたが、ワイズの世界でも国際議会の改革案の選挙が行われ、これからワイズの名称改定についての投票が行われます。2022年のワイズ創立100年に向かって国際協会の大きな動きを感じられていることと思います。

既にご案内の通り、西日本区においても2014年7月から事業主任制度が改革されます。現在のファンド事業と交流事業は次々期より廃止されて、国際・交流事業が新設されます。広報事業も廃止され、広報・情報委員会という常置委員会がその役割を担います。昨年11月の第2回西日本区役員会でもその議論が始まっていますが、次年度以降からはより良い体制になるよう的確な準備とスムーズな体制移行に努める必要があり、皆さまのご理解とご協力が欠かせません。

YMCAと共同して社会に貢献するワイズの活動は、その素晴らしい個性と温かい思いを共有するワイズの仲間の交流・研鑽内容が、もっともっと地域社会から共感を得られてしかるべきで、多くの人々がワイズに関心を持ち私達の仲間に加わって頂きたいと強く願っています。その為にも未来に向けてより良い組織に変革すると共に、私達一人ひとりがワイズ発展のために力を合わせて努力していこうではありませんか。これからもどうぞよろしくお願い致します。



思い出多い上半期 最高の下半期へ

書記 平野 実郎
(名古屋)

成瀬晃三理事の下で会計、理事事務局・事務局員、区事務所職員とタッグを組み、理事キャビネットとして西日本区会員の皆様のサポート役として半年が経ちま

した。期のスタート当初「楽しく行こう!」と始まりましたが、未だその境地に至らず右往左往している所でございます。しかし、この経験がいつの日か楽しい思い出となる事を楽しみに、残り後半しっかり進んで参ります。さて、上半期2回の役員会と9つの部会に成瀬晃三理事と共に参加させて頂きました。今期は徐々に極東名古屋から離れて行く日程で、びわこ部から始まり九州部が最終となりました。各部長とホストクラブの皆様のおかげで大変楽しく有意義な時間を過ごせた事、この場をお借りして感謝申し上げます。区大会や役員会でお会いするのは違い、その地でお会いするのは格別で、現場が一番と改めて感じた時間を頂きました。九州部部会は阿蘇の大自然に抱かれた地での開催でしたが、都合上始発に乗り、最終で帰って来る新幹線の旅となりましたが、日本は広い!そして良い国だと改めて感じました。移動手段の進歩で名古屋—九州間を日帰り出来る世の中になり、距離感が狭くなった感はあるのですが、各地域での特色を出し、その地ならではの趣向をこらしたおもてなしを受け、ワイズの醍醐味を満喫出来た部会期間でした。関係者の皆様本当にありがとうございました。年が明け皆様には半年報のお願いから後半スタートとなりましたが、ご協力どうぞ宜しくお願い申し上げます。また、お手元に第16回西日本区大会のご案内が届いていると存じます。若松芳弘実行委員長を筆頭に中部のメンバーが皆様をおもてなしする準備を整えて居ります。お会いし、語らいワイズの楽しさを体感出来る大会に致しますので、どうぞ名古屋へお越しください。心よりお待ち申し上げます。

役員会等で主任並びに部長報告を通じ会員皆様のご活躍をお聞きしておりますが、西日本区と皆様のゴール達成を目指し、また、未だ時間と労力を必要としている東日本大震災への復興支援のご協力を含め、残りの下半期どうぞ宜しくお願い申し上げます。



会計の思いを 一つに繋げて

会計 渡辺 真悟
(名古屋)

西日本区会計という大役を拝命して半年が経ち、当たり前の話ですが何事も初めての経験ばかりで、戸惑いながら一生懸命やって来て、何とかここまでたどり着いたというのが偽らざる実感です。これまで旅費交通費の支給や事業費申請の事務処理、一部の事業主任さんには全体

予算から見た事業費に関する情報提供等を行ってきました。色々と不手際も有ったかと思いますが、ここまで来れたのも関係するワイズメン全ての方々のご理解とご支援の賜物と深くお礼申し上げます。

後期に入りますと西日本区会計の主な業務といたしましては、各クラブから後期に入って直ぐ提出していただいた半年報に基づいた後期会費の請求や、東日本大震災支援金はじめ各種献金の受け入れがあります。どうか皆様には期日までの納入と「献金目標達成!理事ゴール達成!」に向けての熱きご協力をお願いいたします。

さて区会計の仕事は、皆様からお預かりした大事なお金を適切に管理しながら、入出金業務を行い、次の期に残し渡してゆくことにあります。当然のことながら連続性と継続性が大変重要です。その為に財務委員として、引き続き大きなお働きご支援を頂いている三原茂靖直前会計のみならず、田中雅博前々期会計、杉本隆人前々々期会計とも大変親しくさせていただき、有意義なアドバイス等を頂いているのは感謝です。

私以前の期は3期続けて近畿圏から理事を輩出したこともあり、各期の西日本区会計の方々には足繁くに西日本区事務所へ赴かれ、事務所職員の北村さんと共にその月の会計処理に遅れや問題がなかったかを検証されてきました。私も及ばずながら2ヶ月に一度は西日本区事務所へ行き、円滑に会計処理が成されるよう勉めている所です。

来期は私よりもなお遠隔地の方が会計をされますので、顔を見せるよりも仕組みとしてしっかりお金の管理が出来るような体制作りがより大事に成ってくると思います。また西日本区の会計処理に関しては、事務所職員の北村さんのお働きに負うところが非常に大きいものが有り、私も大いに助けていただいています。新しい西日本区事務所職員の公募が成されています。次の方に繋げる意味においても西日本区会計運営の仕組みの見える化(ちょっと難しく言うと、暗黙知から形式知へ)が必要です。

そういう意味で残された期間、西日本区会計として職務を全うすると共に、私が経験したことを次の会計の方にもしっかり伝えバトンタッチして行きたいと思っております。どうか皆様のご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。



行政監事として「ワイズに自信を持って楽しんで」をモットーに

行政監事 仁科 保雄
(京都キャピタル)

西日本区 16 代成瀬晃三理事のもと、早くも後半期を迎えました。全ての事業がスムーズに進んでいますが、EMC 事業主任の努力がまだまだ実らない部が多くみられ誠に残念です。

毎年のように東西日本区でメンバー減少が続いています。ここで私たちみんなが考えなくてはならないのは過去、メンバーが増加し各部がにぎわった時代は、国内のバブル景気に支えられ、いろいろなクラブが人々の目を引く活動を行い、ワイズメンズクラブという存在を今まで意識していなかった人たちにとって、ワイズに入る事が一つのステータスと見られるようになり、活動内容を理解せぬままに、ただ一時の空想を抱かれ、様々なクラブに入会されていたと思います。

それら多くのクラブでは、仕事上の上下関係や取引関係等、様々な人間的な繋がりで入っていなければという不安感などが作用し、退会すらできない状態におかれていた人々が多く見受けられました。しかし、好景気に沸いたバブルが崩壊してしまった現在では、景気の悪化と共に、今まで自分に課せられた大きな無理をはねのける事に気が付き、一番手短なクラブの活動に終止符を打たれた方が一気に増えたものと思います。

しかしワイズの世界は他の奉仕団体とは少し違った存在であると思います。まず、第一に仕事の上下関係、取引関係がワイズ活動の継続には繋がらない事。YMCA 支援と地域奉仕に主眼を置いている事。メンの活動をサポートするメネットの存在・活動が大きな支えである事だと思っています。私たちは YMCA の理念、即ち青少年健全育成のプログラムに賛同し、世俗の論理を排し、宗教や思想の自由を尊重し、お互いを高め合う素晴らしい理想と理念をもったクラブだと自負しています。

一昨年 of 東日本大震災で受けた大きな衝撃を、一時も忘れ去ることがないようにメンバーが懸命に支援活動を続けておられます。このことがきっと後世に大きな賞賛となりワイズメンズクラブの後ろ盾となり、メンバー増加の活動の原動力を生み出してくれるものと信じています。やはりクラブというのは、自分が参加していて楽しくなければ何の意味もありません。自分がその輪に飛び込み、様々な経験をし、

それを積み重ねて初めてクラブのよさや楽しみが得られるものと思います。それを友達や家族に伝えてあげて戴きたいと願っています。楽しい所には必ず人は集まります。それが私の何時も思っているワイズへの理想・信念です。



ユースと共なるワイズ

財政監事 鈴木 誠也
(神戸ポート)

今年度の西日本区成瀬丸も無事前期を終えて、後期に向かっております。役員のみなさまはじめ全ての会員のご協力に心から感謝申し上げます。

財政監事の役割は、財務委員会による健全な財務経過を見守り助言することです。半年報による西日本区会費と国際や西日本区への献金締め切りの時期があります。各クラブの真摯な取り組みによって、100%達成に向けて最低限の努力をお願いします。待っているだけでは達成できません。西日本区はみなさまの会費と献金によって運営されています。

まずは会員を増やして財政を豊かに確保出来るようにしましょう。西日本区2000の掛け声が達成できれば財政に余裕が出てきます。せめて西日本区の役員になって頂く方には、できるだけ負担がかからないように健全な財政を達成し、大きな仕事出来るような仕組みを作りましょう。

東日本大震災復興支援、各クラブはそれぞれの状況に合わせて直接DBCクラブやYMC A 宛に行動されたり、西日本区を通しての献金又は個人としての行動、活動も含めれば巨大な献金や奉仕活動によって支援を継続されています。東日本大震災復興支援募金に更に多くの浄財が集められますようお願いいたします。

各YMCAにはユースリーダーが沢山おられ、それぞれ生き生きとして子どもたちの指導に当たっておられます。ワイズはそのようなユースリーダーと共に働くことが出来るはずですよ。YMCAのスタッフやリーダー達の参加を得ることによって多くのヒントが得られます。リーダー達は子どもたちと共に遊び学んでいます。ワイズも共に遊び学ぶことによっていろんなことが可能になってきます。各部におけるYYフォーラムによってユースと共に生きるワイズを実践して頂きたいと思っています。

日本 YMCA 同盟から



皆様のご支援に感謝— 3.11 を風化させない取り組みを願う

日本YMCA同盟総主事 島田 茂

西日本区の皆様、いつもYMCAをお支えくださり感謝です。皆様のお支えにより、東日本大震災から丸二年間の救援・復興支援の活動を継続することができました。特に、メネット事業では東日本大震災での支援者及び被災者の心のケアに取り組まれるなど、皆様の積極的な参画に敬意を表します。

11月16日に第5回東日本大震災YMCA募金管理委員会が開催されました。YMCAは、被災地域の3拠点・宮古ボランティアセンター、仙台YMCA支援対策室、YMCA石巻支援センター及び福島の子どもたちのリフレッシュキャンプを中心に支援を継続しています。これまで、ボランティアとして現地に赴いた累計人数は、宮古では15,967名、仙台では3,971名、石巻では1,058名と、合計2万人以上に及びました。活動受益者累計も約8万人の方々に支援を届けたこととなります。また、三菱商事

支援のリフレッシュキャンプには、5千人に及ぶ子どもたちが参加しました。募金額としては、青少年救援・復興募金に累計約3億3千2百万円、被災YMCA支援募金に累計約6千5百万円が寄せられました。そのうち今年度の目標額は、青少年救援・復興募金に全国で8千万円ですが、10月末の時点で3千3百万円にとどまり、被災YMCA支援募金では、目標2千万円に対して約2百万円と募金額が低調です。青少年救援・復興募金に関しては、年内に海外からの助成金を要請していますが、被災YMCA支援募金に関しては、困難な状況が続いています。全国YMCAでは2月の全国YMCA総主事会議で各YMCAの次年度東日本大震災救援・復興募金から同盟を通じた支援額の予想を出してもらい、3拠点の活動方針を決めます。また、全国YMCAでは丸2年を迎える2013年3月11日には、3.11を風化させない取り組みとして、共感するストーリー提示など写真展等を開催することを検討しています。プロジェクトとして歌の配信など国内外、インターネットで共有できる仕組みも進めています。今後も長期にわたりワイズメンズクラブの皆様のお支えをお願いいたします。

2012年7月より私は国際議員(ICM)としての役職を与えられました。国際議員の活動を国際協会の現況と合わせてご報告させていただきます。現在、ワイズメンズクラブの国際協会は9つの地域(Area)により構成されており、それぞれの地域から選出された21名の国際議員による国際議会(ICM)にてワイズ運動における最高意思決定を行っています。今期の国際議会は2012年7月にノルウェーのスタバンゲルにて、また各地域の代表による年央会議(MYM)が2013年2月にアメリカのホノルルにて開催されました。国際議員は国際議会への出席と議決権の行使が義務であります。今期はその国際議会の改革も含めて重要な決定が行われました。

国際議員の定数改正

スタバンゲルにおける国際議会で国際議員定数削減の改革案が承認されました。これは国際憲法改正を必要とする議案であり、国際協会に所属し投票資格を有するクラブの3分の2以上の賛成投票をもって改正が承認されます。この国際選挙も僅差ではありましたが、クラブからの承認を得て、国際憲法が改正されることとなりました。2015年度より国際議員定数は現在の21名から15名に削減されます。またそのうちの2名分は40歳以下の若いメンバーの代表による議席とされます。任期も3年から2年に短縮されます。このことにより国際協会の運営に掛かる経費を削減でき、また意思決定の過程に若いメンバーの意見がより反映されやすくなります。また、地域間の議員数の偏りを是正することにつながります。この国際憲法改正には藤井寛敏元国際会長(東京江東クラブ)が大変にご尽力されましたことをあわせてご報告いたします。

エンブレム・ロゴマークの変更

先の国際議会ではワイズメンズクラブ国際協会の名称変更を含むイメージ改革について議論されました。このなかでエンブレム、ロゴマークの変更が承認されました。すでに正式に新しいものが使用されています。各クラブにおかれましても適宜新しいエンブレム・ロゴマークをご使用いただくようお願い申し上げます。なお、印刷物、記念品等の在庫につきましては引き続きご使用いただけ

ますが、新たに作成される際には新デザインのご使用をお願いいたします。

国際協会の名称変更案

ワイズメンズクラブの名称に含まれる「メンズ」の言葉が男性中心、性差別的で排他的なイメージを伴うため、特に欧米の英語圏の国々を中心に名称変更の必要性が長年議論されてきました。今回この名称変更案についても国際議会で協議され、議会では承認されましたが、のちのクラブによる国際選挙では3分の2以上の承認が得られなかったため、国際協会名称変更のための憲法改正は承認されませんでした。この件につきましては賛否両論様々な議論があり、国際選挙の結果をうけ年央会議では引き続きワイズメンズクラブのイメージ改革について特別委員会にて議論が継続されることとなりました。

このほかにも国際議会では次年度予算及び会計報告について、またBF、EF、TOF、RBMなど様々なプログラムについて協議されています。また世界YMCA同盟との協働について地域を中心に多くの取り組みについての協議がなされています。特に新たにはじまった「チェンジ・エージェント」育成プログラムへの協力を強化していくことで各地域の連携を図っています。

現在、国際協会では来る2022年のワイズメンズ運動100周年に向けて特別委員会を設けて様々なプログラムに取り組んでいます。西日本区の各クラブからは国際に対してこれまで多くのご協力とご貢献をいただいています。より一層のメンバー増強とプログラムの充実に向けて、引き続き皆さまからのご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2013年2月、米国ハワイ・ホノルルにて開催された国際年央会議にて



Empowering Young People

日本YMCA同盟連絡主事 山根一毅

昨年発行の世界YMCA同盟『The Blue Book』という調査資料の冒頭に、「Empowering Young People 若者のエンパワメント」という言葉が登場します。

Empowerとは活力を与える、権限を委託するという意味。YMCAの取り組みは、この一言に尽きます。2012年度も被災地支援を継続しつつも、日常のYMCAとワイズメンズクラブの協働が、ユースのEmpowerを実現してきました。各地での協働は、皆様もご承知のことと存じます。ここでは、日本YMCA同盟が直接ご支援を頂いたプログラムを紹介いたします。



•YMCA 地球市民育成プロジェクト

8月29日～9月4日、国内、韓国、台湾、香港、マカオから、70名を超えるユースが東山荘で友情を深めつつ、「自分たちの生活と世界とのつながり」、「不平等、不正、格差が広がるシステムへの批判的分析」などをテーマに、フィールドワークなどを通して意見を交わしました。旅費・参加費補助として30万円を支援いただきました。

•全国YMCAリーダー研修会

10月6日～8日、阿蘇YMCA(熊本)に約100名のリーダーが集い、「初心」というテーマで学びを深め、友情を深める機会にもなりました。熊本のワイズの方々のバーベキューのお振る舞いもいただきました。旅費補助として20万円を支援いただきました。



•中日本地区グローバル研修会

2013年2月16日～17日、六甲山YMCAにて実施されます。国際協力に関心のあるユース、若手スタッフらが集います。ローカルかつグローバルな課題を捉えた上で、YMCAの国際協力の価値について考え、日常の活動につなげて何ができるかを学びます。運営費補助として、25万円を支援いただきます。

•第18回学生YMCAインド・スタディキャンプ

2013年2月20日～3月9日にタミルナドゥ州のボーイズホーム等を訪問し、飢餓と飽食が共存する世界に生きているという事実に対して、目を開かざるを得ない体験をします。芽生えた問題意識は、学生YMCA活動を充実させ、ワイズメンズクラブでも報告会を行っています。渡航・滞在費補助として25万円を支援いただきます。



特別寄稿

東日本大震災支援活動の近況報告 — 皆さまのご支援に感謝して —

東日本区仙台3クラブ実行委員会委員長 清水 弘一

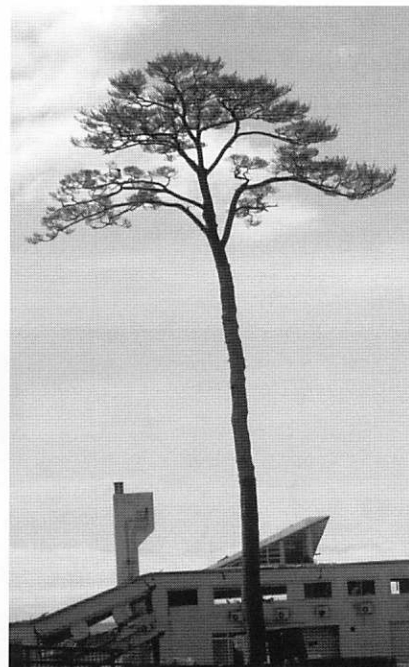
大震災が発生してまもなく満2年を迎えようとしておりますが、いまだに2700人の行方不明者がおられ、ご家族の方々のことを思うと慰めの言葉も見つかりません。被災地は1年前の状況に比べ、瓦礫撤去も徐々に進んでいるものの、一方では一般ボランティアのワークが激減し、ボランティアセンターの機能縮小が顕著に見受けられます。被災者の生活が避難所から仮設住宅へと変化し、昨年要望が多くあった物資支援が最近では減少し、仮設住宅での行事ボランティア派遣や運営協力を求められるケースが増えてきております。YMCAは震災直後より仙台ボランティア支援センターと宮古ボランティアセンター、まもなくして石巻支援センターを立ち上げスタッフがそれぞれに常駐し、支援活動を続けております。そのような状況の中で、仙台3クラブ(仙台・仙台青葉城・仙台広瀬川)は、仙台YMCAボランティア支援センターとともに、震災発生当時、そしてしばらくは、全国のワイズに呼びかけて食料品や生活物資の支援が続きました。至るところで仙台への交通が遮断され、ガソリンも入手困難のなか西日本区の皆さんからの支援物資が届けられたとき、私たちは、どんなにか励まされたか分かりません。震災発生直後には、仁科理事が駆けつけていただき、そして浅岡理事、成瀬理事、高瀬次期理事始め多くのメンバーが被災地のニーズを直接確かめるため訪問していただき、私たちの支援プログラムに参加・協力していただきました。今回の大地震の特徴は、大津波の被害が大きくあまりにも範囲が広いことでした。全部の被災地を対象にすることはできませんでした。支援範囲の拠点も3か所に絞り、支援活動は被災地からの直接要請を受けて行いました。被災地2年目は、「仮設住宅夏祭り応援協力」や「流灯花火大会応援出店」、「被災地施設改修工事支援」など、また特に力を入れたのは、被災地の現状を一人でも多くの人に実感していただくために、東日本区・北東部の支援を得て、昨年夏は3回の被災地ツアーを実施したことでした。西日本区の皆さんにも、多大のご支援とワークに参加していただいた山元町では継続してきた「いちご復活プロジェクト」にも新しい展開が見えました。一昨年来、瓦礫撤去から始まった「岩佐イチゴ農園プロジェクト」は、2軒目となる「渡辺イチゴ農園」の支援活動に繋がり、大津波により、すべてのイチゴハウスと苗を失ったイチゴ産地山元町亘理町の復興へ期待が持たれるとともに、現在、復興が震災前の20%程度の回復と言われる中、今後3、4…軒目とイチゴの栽培を再開する農家が増えつつあることは嬉しい限



仙台YMCAに到着した救援物資(第一便)



大震災発生直後の女川港
(基礎杭まで抜かれ横倒りになった警察署)



陸前高田市高田松原の「希望の一本松」3月には
モニュメントとして復元される

りです。大震災で被害のあった仙台YMC A 国際ホテル学校
 専門学生への支援やDBCヘキサゴンクラブによる幼稚園園児
 2名への奨学金制度も続いております。また、神戸ポートクラブ大
 野勉氏の折づるランも太平洋沿岸の被災地を北上、現在大船
 渡市まで到着し、最終目的地の宮古市まであと100 km弱のと
 ころまできました。今年の冬は例年になく寒さが厳しく雪が多い中
 のランニングが続いておりますが、途中、被災地住民との思いが
 けない交流がありました。ご紹介すればまだまだ多くのプログラム
 へのご支援がありますが割愛し、ここで、これからの被災地支援
 活動につき若干申し上げたいと思います。

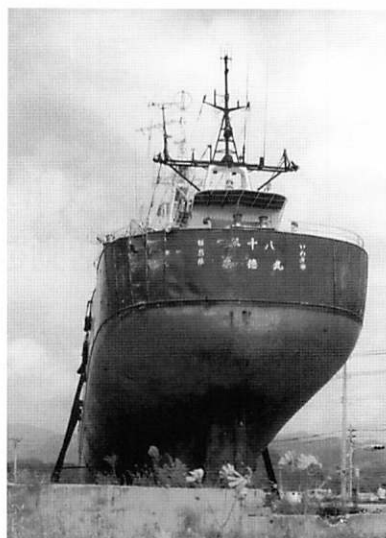
●一般ボランティアのワークが激減している今、最低でも数年は、
 現在の①宮古②石巻③仙台の3YMCAボランティアセンターと
 ワイズとのコラボを続けてまいりたいと思っておりますが、これら
 の活動の維持の原資は皆さまからの貴重な募金です。引き続き、ご
 支援をお願いいたします。

●仙台3クラブと会津・もりおかの5クラブと北東部は、3.11を忘
 れることなく、また活動資金捻出のため、東西両区の後援を得て、
 絵はがきの販売を2月中旬頃より実施いたしますのでご支援を
 お願い申し上げます。

●「忘れてたまるか3.11-あの時の絆を-」の大会テーマの下に、
 第16回東日本区大会が6月8・9日、岩手県・花巻温泉で開催
 されますが、ご参加いただき復興中の被災地をぜひご覧いただ
 ければ望外の喜びです。

終わりに、東北の被災地で暮らすことの大変さに、同情ではな
 く共感してくれることに感謝し、その行動が東・西日本区のワイズ
 メンズクラブや全国YMCAの連帯感に繋がっていることに、改め
 てありがたく感じております。

本年も、西日本区各クラブのメン・メネット・ユースの
 皆様のご健勝をお祈りし、報告といたします。



気仙沼港付近の住宅地に押し上げられた漁船



震災直後の多賀城市内



復活した山元町の岩佐イチゴ園の苗植え作業



復活した岩手県大槌町吉里吉里村の灯台



風評被害販売支援市場(いわき市)

事業活動報告



Yサ・ユース事業はいよいよ本格的に活動を開始します!

Yサ・ユース事業主任 下村 明子
(名古屋グランパス)

今期が始まって早や半年が経過しました。日頃よりYサ・ユース事業に対してのご理解とご協力に感謝いたします。YYフォーラムをはじめアジアユースコンボケーションへ向けての準備など、Yサ・ユース事業は期の後半から本格的に活動を開始します。YYフォーラムについては中西部とびわこ部はすでに開催済み、申請により各部5万円、計10万円の事業資金援助を実施しました。以下その概要をお伝えします。

中西部は9月1日に大阪YMCA会館にて「変わる大阪YMCAの働き～大阪YMCAのYボランティア構想とは?～」をテーマにYMCA関係者16名、ワイズメンズクラブから44名の計60名が参加しました。YMCAとワイズが信頼感を持って協働するには互いをよりよく知ることが一番であると考え、昨年6月に大阪YMCAが行なった会員制度改革の話題を「発題」「パネルディスカッション」「お茶と交流会」の3部構成で取り上げました。

びわこ部は11月4日に彦根ビバシティにて「Y'Yボウリング大会」を開催、60名を超える参加者のうちリーダーの参加は33名、「チャリティーボウリング大会」と「交流会」の2部構成でした。チャリティーボウリング大会では、ストライクを出す毎に用意された献金箱に100円を投入する方式で行われ、集まった献金は全額滋賀YMCAに寄付されました。



さて今度は誰がストライクを決めるかな?



私は清掃除専門のため協力できず、残念!

次に、事業資金援助を受けて実施済み、または実施予定の二つの事業についてお伝えします。一つは九州部による「第43回全国YMCAリーダー研修会」での食事を中心とするサポートです。全国から集まる100名近い参加者の2泊3日分の全食事について厨房手伝いから配膳までをサポート、ワイズ交流会ではバーベキューの提供、一部プログラムへの参加もあり、申請により10万円の事業資金援助を実施しました。

もう一つは日本YMCA同盟実施青少年プログラム支援です。「地球市民育成プロジェクト」「中日本地区グローバル研修会」「学生YMCAインド・スタディキャンプ」「全国YMCAリーダー研修会」の各プログラムに対する参加者への旅費および参加費の援助として、申請により100万円の事業資金援助を実施しました。

今後の事業活動予定として、今年は1月12日の六甲部をスタートに各部YYフォーラムに参加します。各部の特色を生かしたYYフォーラムへの参加を楽しみにしています。またアジアユースコンボケーションについては、プログラム等詳細が決まり次第、参加者募集を開始いたします。各部1名以上合計10名以上のユース派遣にご協力をお願いいたします。昨年事業委員会にて発行した国際ユースコンボケーション報告書が各クラブに配布されておりますので、参加者募集ツールとしてぜひご活用ください。

最後にお願ひです。これら事業支援を行なうためには資金が必要であり、今期は各クラブYサ・ユース献金100%達成、献金ゼロのクラブがないよう、引き続きみなさまのご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。



蚊帳で命を救う

地域奉仕・環境事業主任 笠井 俊明
(京都トッパス)

今期はワイズメンズクラブ国際協会のUGP(国際統一事業)であるロールバックマラリア(RBM)を重点的にアピールさせていただいています。皆さんはご存知でしょうか。マラリアは世界三大感染症(結核・HIV/エイズ)の1つです。世界で未だに毎年2億人以上が感染し70万人余りの人が亡くなっています。その中でも大半が5歳以下の子どもたちです。ワイズメンじゃなくても、ワイズの事業でなくても、この問題に関心を持ちマラリア減少に行動することを人として求められているのではないでしょうか。ワイズ国際協会が国際奉仕クラブとしてRBM運動に参加していることにぜひ共感してください。

西日本区の皆さんにこの運動の理解と協力を得る為にアピールすることが私の役目でもあります。世界の沢山の組織や機関がRBM運動に参加しています。そして成果が出てマラリアは大きく減少しています。その中でも一番の要因は専用の防虫蚊帳だと言われています。マラリアを移すハマダラ蚊は、夜行性で寝ている時に刺されることが多いのです。この運動で集めたお金は蚊帳を含めたパッケージを買うために使われます。またこの蚊帳は日本企業が開発したもので蚊帳に練り込んである殺虫剤の効果が5年間持続するというすぐれものです。WHO(国際保健機構)はこの蚊帳を推奨しています。そして幸運にもワイズメンの協力により蚊帳の現物を手に入れることができました。これを持って各部会にお邪魔しました。そこでは蚊帳・ポスターの展示、取組のアピールをして参りました。皆さん見ていただけましたか。その節は各部長やホストクラブの皆様にも場所や時間を取って頂き本当にご協力ありがとうございました。



各部会でのアピール風景

次にCS資金についての報告ですが、特にCS資金は今現在多く繰越金がかたまっています。区定款に書いてある資金判断基準をよく理解していただき、地域奉仕のために資金的に困難な時に活用してください。以前からこ

の判断基準が曖昧で解りにくいのご指摘が有りましたので、今回その資金判断基準の補足事項を皆さんにお示しました。ぜひこれを参考にしてください。もちろん審査がありますが申請をお待ちしています。今期実行済みの資金活用報告をさせていただきます。

件名1 九州部

九州北部豪雨災害被災児招待 あそぼうキャンプ

CS資金 60万円

九州北部豪雨災害及び東日本大震災の被災児を対象とした



「心のケア」を目的とした事業をYMCAと九州部ワイズの協働で実施。阿蘇YMCA キャンプ場 9月15～17日実施されました。

件名2 京都部

京都みやびクラブ

「AIDS文化フォーラム in 京都」



協力事業 CS資金 サポートスタッフ・京都部ブース設置 9万円 10月6・7日 同志社大学開会式プログラムと落語家「森乃福朗」の福祉落語の開催

件名3 西中国部オータムハーブコンサート

地球とつながる YMCA と東日本大震災支援絆コンサートの開催

CS資金 10万円

参加した各部の地域奉仕・環境事業研修会及び懇談会の報告

1. 京都部 地域奉仕・環境事業懇談会
2012年8月24日(写真左)
2. 瀬戸山陰部地域奉仕・環境事業委員会
2012年10月8日
3. 九州部 地域奉仕・環境研修会
2012年10月20日
4. びわこ部地域奉仕・環境事業懇談会
2012年11月11日



その他にもFF・TOF・東北震災復興・環境とありますがこちらの方も是非ご協力お願いします。



上半期を振り返って

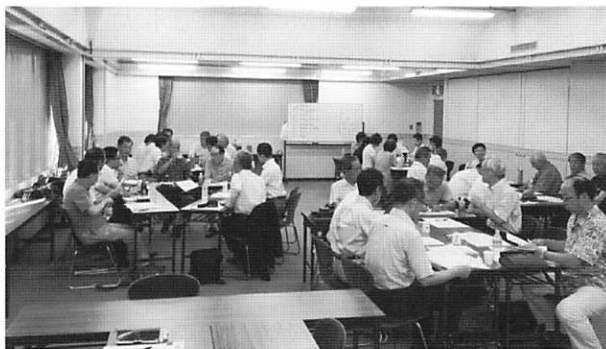
EMC 事業主任 米村 謙一
(熊本むさし)

ワイズメンの満足度を上げよう

今期EMC事業は成瀬晃三西日本区理事の「ワイズメンの満足度を上げる」という方針に従いまして、EMCの中でもMC(クラブの健全な維持・存続)に力を入れて計画を立ててスタートしました。

各部でEMC推進事業の開催

各部部長、EMC主査のご理解とご尽力で上半期は8部においてシンポジウム、フォーラムなど様々なスタイルでEMC推進事業を開催して頂きまして、それに実際に出席してご当地の皆様と一緒に学ばせて頂きました。それぞれの部には大きく異なった特徴や背景、課題や問題があり、各クラブにおいては尚一層の違いがあります。区で決めた方針をトップダウンで展開することには限界がありますので、それぞれの部の状況と個性を踏まえて、ご自分たちのクラブや部の中長期的な方向性や計画を作り上げていく必要を改めて感じました。



中西部 EMC フォーラムの様子

『クラブ自己診断プログラム』とは?

今期EMC事業の最大の特徴はこのプログラムです。EMC事業の「MC」はクラブを健全に維持・発展させることです。クラブの現状を客観的に把握してクラブ内で共有し、それを共通の土台として議論をして問題解決や方針決定を行っていきます。そのためのいくつかのプロセスをプログラムとしてまとめたものが『クラブ自己診断プログラム』です。自分たちのクラブを自分たちで分析することで共通の現状認識の上に立ち、課題や目指すべき方向性を議論の中から導き出すこと、それを達成するための方策を共に考え出すこと、などが特徴です。

『自己診断プログラム』の普及・実践

各部主査対象で2度の研修会を開いてこのプログラムの説明し、部内各クラブにおいて「EMCを考える例会」やその他の機会実践して頂くことをお願い申し上げました。ビジターを多く招く例会の前にやっておくと、違和感なくクラブ例会に出席でき、入会にも結びつき易くなります。5つの部でシミュレーションとして実際にプログラムを実践させて頂きました。また、神戸クラブ、熊本クラブ、熊本みなみクラブでは実際に卓話者としてお手伝いさせて頂きました。中には自力で開催して下さったクラブもあり、クラブ担当者さんや部主査さんからもやってみてよかったとのご報告を頂いております。

EMC調査負担の軽減

西日本区のEMCの現状を正しく把握するためには各クラブの毎月の活動状況の集計が必要ですが、各部の主査や主任の集計負担は非常に大きく、本来のEMC事業推進のために動くための時間や情熱が集計業務に割かれてしまうという厳しい現状がありました。そこで集計頻度を毎月から三ヶ月に一度へと変更させて頂きました。集計頻度と共にEMC主査やEMC主任を悩ませるのが半年報の会員数とクラブから報告されるEMC集計表の会員数との違いです。正しい現状認識に立つための集計がなかなかできずに、ここに時間と労力が割かれてしまうことはそろそろ卒業して、次期以降では主査や主任が本来のEMC推進事業に注力できる環境づくりを残りの半期で弛みなく進めて参りたいと思います。

事業委員会を4回開催

現主任、次期主任、直前主任で構成されるEMC事業委員会を今期は上半期で4回開催しています。例年より多い頻度ですが、社会全体が大きな転換点にあるように、私たちの西日本区も大きな転換点にあると思います。これまで先輩方が積み上げてきた歴史や文化を鑑みつつ、現状の社会状況、これからの社会のあるべき姿などを踏まえて、各クラブや各部に応じたEMC活動ができるようにいかに西日本区EMC事業委員会がお支えできるのかということ熱心に議論しています。特に「2000推進チーム」の活動の成果と課題を整理しており、次期以降では効果的な活動ができるように検討を重ねています。

2000推進チームをリニューアル中

理事、部長、主任をはじめとして単年度の役員が任期内にEMC事業において成果を出すことは容易なことではありません。そこでEMC主任のもとで、継続的にEMC事業を研究し、情報提供したり、啓発活動を行ったりする

ことがこのチームの役目です。区主導から部が主体的に活動できるように各部に推進チームを立ち上げ、そちらへ2000推進チームの役割を移行していくことを目指しています。西日本区2000推進チームから〇〇部□□□推進チームへと移行しようという訳です。地方自治の時代ですし、多様化と個性が尊重される時代です。時代の変化に合うように組織のあり方を検討したいものです。



びわこ部200推進チームを設立!



世界はつながる

ファンド事業主任 岡野 泰和
(大阪土佐堀)

2012 - 13年事業年度が半期を過ぎ、ファンド事業主任としての前期の事業報告をまとめます。西日本区のファンド事業ではBF(ブラザーフードファンド)、EF(エンダウメントファンド)、JWF(西日本区ファンド)の三つのファンドへのご協力を各部長、主査様方を通して各クラブへお願いしています。事業主任の主題として「世界につながるワイズ、世界をつなげるファンド事業」を掲げ、今期は特に国際協会としてのワイズの活動を支える重要な役割を担っているBF事業へのご理解とご協力をお願いしています。目標として、すべてのクラブが使用済み切手の換金や現金による献金を通して、BFポイントを獲得していただくことを目指しています。また併せて、クラブの周年行事やメンバー個人の祝い事などの機会にEF、JWFへの献金をお願いしています。

各部の部長様、主査様にはファンド事業の重要性をご理解いただき、積極的にご協力をいただいています。ファンド事業主任として各部の部会に参加させていただき、部のファンド事業研修会などの機会に直接クラブの担当者の方々にファンド事業についてお話しさせていただき、ご協力をお願いしてまいりました。また多くのクラブの例会にゲストス

ピーカーとしてお招きいただき、国際協会の現状とその活動を支えるBF事業についてお話しさせていただく機会を与えていただきました。特に京都部では船木順司部長、白濱廣史ファンド主査のリーダーシップのもと、ファンド事業の研修会を複数回開催していただき、各クラブの連携とファンド事業へご理解を深めていただきました。そのような活動の中で感じたことは、多くのクラブや部で大変積極的にそれぞれのファンド事業を進められていること、また皆さんが楽しみながらできるだけ多くのファンドを獲得しようと、様々な工夫を凝らしていただいていることでした。事業主任としての私の役割はそれぞれのクラブで地道にご努力いただいているファンドの活動を、より多くの皆さんに知っていただき協力していただけるよう努力すること、またそのファンドによって国際協会やアジア地域の活動が支えられていることをより多くのメンバーの皆さまにお伝えし、ファンド事業の意義を再認識していただくことだと思います。

今期より私は国際議員としての役割を与えられ、国際議会やアジア地域の重要な会議に参加させていただいております。ワイズメンズクラブの世界的な活動の意義をメンバーの皆さまにお伝えし、ファンド事業を通じてその活動を支えていただいていることに対して皆さまに感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。(国際議員の報告は別稿をご参照ください。)

引き続き後期も皆さまにファンド事業へご協力をいただきますようお願い申し上げます

「ファンド事業で世界はつながる。」



京都部第二回ファンド・BF事業懇談会にて
各クラブファンド事業担当者みなさんと
船木部長(中列中央)、白濱ファンド主査(前列右よりお二人目)



やっぱり楽しいワイズライフ

交流事業主任 石田 由美子
(宝塚)

年が変わり、交流事業主任としてのお役目は折り返し地点を過ぎました。振り返って感想は?と聞かれると「楽しかった!」の一言です。何故楽しかったのか、以下の報告をご覧ください。

部会

2012年8月25日(土)のびわこ部部会から始まった9部会は10月20日(土)の九州部会で幕を閉じました。初めて全部会を出席してそれぞれの部の個性、地域性を強く感じ大変楽しませて頂きました。この楽しさをみなさんにお伝えしたくて、全部会の報告を西日本区 HP の交流事業通信に掲載しました。ぜひご覧ください。その際、現場写真提供にご協力下さいました方々に感謝です。今回紙面の関係で一部しかご紹介出来ないのが残念です。

DBC

2012年10月20日(土)、九州部会交流事業分科会において、京都 ZERO クラブと阿蘇クラブの DBC 締結式がありました。末永くお幸せに…



STEP

四日市クラブ・大西博昭メンのコメント、大西慎太郎君が2012年8月1日(水)～10月18日(木)の期間、ケニアのナイロビでSTEPとして貴重な体験をしました。

彼の熱い思いをまとめた素晴らしいレポートが提出されています。いずれご紹介したいと考えています。

「交流こそワイズの楽しさ」…この楽しさはワイズメンがもれなく得られる特典です。現在、DBC、IBC への前向きなお話が幾つか出ている報告を受けています。ますます特典をゲットするワイズメンが増えて来そうです。残りの半年、私もますます楽しんで主任を務めたいと思っています。

STEP参加報告

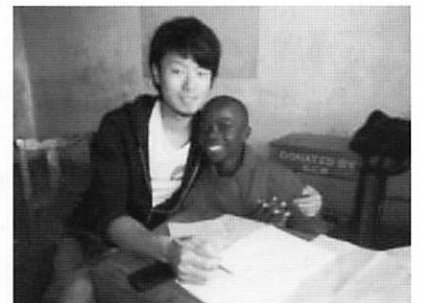
2012年8～10月の間、STEP 事業に参加させて頂き、ケニアおよびタンザニアで様々な経験をさせて頂きました。STEP 事業は海外の Y's Men 家庭に短期間滞在し、滞在先の国での生活も含め、学びの機会を多く創り出します。そして、そこで得られる経験を基に世界の文化間の相互理解を深め、国際感覚を身につけた次世代のリーダーを育成するプログラムです。



大西慎太郎
(四日市)

私は長年、アフリカ諸国における紛争や貧困、教育問題、環境問題、食料問題などに興味があり、現場の状況を実際に目で見て体感したいと思い本プログラムに参加しました。本プログラムは、決められたプログラムが無く私自身の関心事を中心に活動内容を作り上げていくといった点で優れていました。アフリカ諸国は現在、発展への道を歩み出したばかりの国が多く、その中でもケニアは、都市とスラムが混在しています。そこで、そこにいる人々はどのような雰囲気なのか、空気感はどうか、何を考えているのかなど、現地では得られない情報を得ようと思いました。

これらを得るため、幅広い世代、フィールド、バックグラウンドの方々と交流したいと考え、主な活動に①ボランティア活動、②YMCA での貧困撲滅に関する活動、③企業・政府機関の訪問、④研究機関の訪問、⑤



ボランティア先にて
～身につけたスキルは世界で通用する～

1つ目は、ボランティア活動や普段の生活を通じ、「身につけたスキルは世界で通用する」と感じたことです。それまでの滞在中、ケニアやアフリカの実情について多くを学び、「自分に今できることは何か?」と考えていました。そこで、これまで塾で教えていた経験を生かし孤児院で勉強を教えました。子供たちは非常に熱心であり、考え方から教えると疑問をどんどん掘り下げ議論を仕掛けてきました。



ホームステイ先の家族・食・民族などの文化、人々が大切にしている考えや価値観に最も触れられた場所。学びの機会が多く、会話の中から日本人としての人間力も試されました。

私も楽しくなり、子供の要求に応じていきました。そして、これまで日本という豊かな国で、様々な経験をしてきましたが、長年培ってきたスキルは世界でも通用すると感じました。現在の学生は、海外で働きたいという思いをもった方が多いように感じますが、日本で学んだスキルは国際社会において重要な役割を担えると確信しました。

2つ目は多くの交流や旅行から「行動するからこそ出会いがある」ということです。私は2ヶ月半の間に25カ国、200名を超す方々と交流しました。日本においては1年かけてもこれだけの方にお会いすることは無いと思います。この出会いからは多くの刺激が得られ、異なる価値観や考えを共有し、私自身の考え方や価値観などの幅が広がりました。また、現状に満足すること無く好奇心を持って行動することが、自身を成長させる最良の手段であると感じました。

3つ目は「1日を大切に生きる」ということです。ケニアに行き、日本とケニア両国にある独自の豊かさを感じました。特にケニアには、豊かな心がありました。一方で、ケニアの生活には毎日不便さを感じました。物資の面、情報へのアクセスなど、日本ではごく当たり前でできることができない状況でした。この現状を思えば、日本は本当に豊かな国



キリマンジャロ山独立峰世界一 登頂
～行動するから出会いがある～

であり、日本には普段意識することの無い生活が、非常に恵まれた環境であると改めて感じました。学ぼうと思えば学べる環境が手に入り、やりたいと思ったこと

は実行できます。そのような環境で毎日の生活に目的を持ち、1日の大切さを意識して生きられれば、人生の豊かさ、そして日本という社会の豊かさにつなげられるのではないかと、そんなことを感じました。

これら全体の活動を通じ、現場に足を運び、現在起きている問題の本質を考え、自分にできることは何か、目的意識を持ち行動することで、これまでの人生にはない経験ができました。これまでの人生は大枠のある生活が大半を占めた日々でしたが、STEP 事業では自らの経験を得るため、目標を立てて行動したことで大きく成長できました。



広報事業報告

広報事業主任 吉村 秀喜
(長浜)

1.事業主任方針・計画対し現状報告・お礼 方針1

地域奉仕活動を地域社会に広報することにより知名度向上を図る。「クラブ活動等を地域メディア・マスコミ等にニュースとして取り上げていただく。」各部・各クラブにてご理解をいただき、随時地方新聞等への掲載状況をお知らせいただいております。誠にありがとうございます。この事業は第16回西日本区大会でのプレスリリース優秀賞の表彰対象となっております。各部におかれましては、部内のクラブ活動のプレス状況を吸い上げていただき、また吟味していただき、必ず3月末日までに表彰対象として1案件のご推薦をお願いいたします。

方針2

クラブ事業を他クラブに広報することにより西日本区全体の活性化を図る。「より多くのワイズメンにブリテンを見られるような工夫を行う。」まず、多くのクラブから毎月ブリテンをご送付いただきまして誠にありがとうございます。Eメール、メール便、郵送等にて約30以上のクラブからブリテンを送っていただいております。各クラブのブリテン編集をご担当されているメンバー皆様、本当にご苦勞様でございます。

そんな中で感じます事…

①Eメールを利用しておられるクラブで多く見受けられますのがページ数が多いことです。印刷コストや郵送コストを考慮する必要がありませんので、ページ数制限を考慮する必要がないのだと思います。

受け取った側としましてもデータとして保存できますので
ファイリングする手間等が無く大変ありがたいです。

②郵送を利用されておられるクラブは、ファンドのBF切手
事業を重視されているものと拝察いたします。折角の切手
ですから一枚でも無駄にならないように集めさせていただ
いております。別納やメール便をご利用されているクラブも
ありますが、BF切手事業もありますので、切手を利用した
郵送をご検討いただければと存じます。

方針3

各部のホームページを充実させ、各クラブホームペー
ジのポータルとしての役割を推進する。「部のホームペー
ジを充実させる。」各部のホームページも随時リニューアル、
また更新され、リアルタイムな情報発信、ポータルとしての
役割も充実したものとなっております。また facebook を併
用しホームページ更新情報の発信に利用されているケー
スが増えてきているように思います。従来のホームページ
では如何にしてアクセス数を増やすか、如何にしてホーム
ページの更新状況を知ってもらうか等、大変な努力とコス
トが必要でしたが、facebook を上手く利用すれば情報
発信や情報交換が容易に行えます。ワイズメンズクラブ全
体としての今後の広報活動に関しまして、その時々で最
も有効と思われるツールを利用することを考えるべきでは
と感じます。

2.第16回西日本区大会表彰に関しまして、広報事業委
員会より以下の三点を上げております。

何れも、各部より一案件づつご推薦を行っていただく必
要があります。必ず3月末日までに各部(部長・主査)よりご
推薦をいただきたくお願い申し上げます。

①プレスリリース優秀賞(地域メディアへのプレスリリース
状況)※新聞掲載記事の原本もしくはコピーの添付をお願
いいたします。

②ホームページ優秀賞

③ワイズメンズクラブキャッチコピー優秀賞



メネット事業上半期報告

メネット事業主任 野村 靖子
(名古屋東海)

メネット事業半年間の報告は羅針盤のない船の航海
と同じようでした。東日本大震災の支援の継続とYMCA
とワイズの関係する青少年に対するワイズ活動の理解

の促進という、2つのテーマの浸透を目的としたこのプロ
ジェクトの発掘でした。加えて理事方針としてメネット事
業として独自性を維持するためにメネットの献金による自
立が求められました。

なかなか名案が得られない中で、ようやく心のケアに
ついでに講習会を若者と社会教育のためにセットするこ
とにしました。年度が始まるまでに企画を立ち上げるため
には十分な時間はありませんでしたし、企画そのものをワ
イズ役員に十分説明する余裕もなしに、年初の各部会
で協力依頼をする運びになりました。

それにも拘わらず、テキストを書き下して下さった宗方
教授、YMCA関係者と各部部長と各部主査のご協力を
得て、講習会はスタートしました。

現在までの講習会の開催実績と今後の予定

【そっと人によりそここのケアを考える講習会】

11月3日(土)中部 名
古屋YMCA会議室にて、57
名の参加。午後1時から午
後5時まで。講師は金城学
院大学多元心理学科教授
宗方比佐子さんと仙台YMC
A光永尚生さんでした。初め
ての試みとして受付名簿か
ら受講証を作成しました。



12月8日(土)中西部 大阪YMCA会館にて、48
名の参加。江見部長、和田主査を始めワイズ関係者は
30名程の参加の他、大阪YMCA総主事、理事長が参
加して下さいました。

12月15日(土)阪和部 和歌山YMCA会館にて、
38名の参加。その内、私達のねらい通りの若者の参加
が10名ありました。正野部長、白井主査を始めワイズ関
係者は20名余の参加。他に、和歌山YMCA総主事、
理事長が参加して下さいました。

開催場所 (部)		開催日時	
広島 YMCA	西中国部	1月26日(土)	13:00 ~ 17:00
滋賀 YMCA	びわこ部	2月 3日(日)	13:30 ~ 17:00
喫茶ハーモニー			
奈良 YMCA	阪和部	3月20日(水・祝)	13:00 ~ 17:00

他にも、瀬戸山陰部、九州部でも準備がすすめられてい
ます。

部 活 動 報 告



上半期事業報告 及び下半期に向けて

中部部長 荒川 文門
(名古屋南山)

長浜での西日本区大会にて部長バッジを引き継いでからもう半年、時間の早さに驚いています。この6ヶ月間の間に行われた行事、活動を簡単に報告し、下半期に繋がりたいと思います。

1.部長の動向

8月26日に中部部会を開催しました。130名余の方々に参加して頂き、記念講演の東海大講師医学博士の近藤真由氏による「音楽と脳機能、音楽療法の立場から」という興味深い話を伺いました。フェロシップアワーでは、ヴァイオリンによる音楽を楽しみ交流を深めることが出来ました。西日本区役員、遠来の各部の皆さん沢山参加して頂きありがとうございました。

9月には、六甲、京都、中西部、西中国の部会に参加させて頂きました。今期の部会は、音楽を中心にしたものが多く歌ったり、笑ったり、本当に楽しい会が多くありました。10月はクラブ訪問とプログラムの月でした。金沢犀川、金沢、津の各クラブ、YMCAのバザー、自クラブの農園でのイモ掘りプログラム等多忙でした。11月は、「心のケアの講習会」、自クラブの招待イモ掘り、名古屋YMCAのチャリティーランなどが多くありました。12月には、色々なクラブのクリスマス例会に参加させて頂きました。金沢の合同例会のクリスマス、四日市クラブのクリスマス、恒例の名古屋YMCAのクリスマスキャロルなど「主の誕生」を祝う会に沢山参加しました。

上半期、各部会を初め、それぞれのクラブを訪問させて頂き、多くの方々と触れ合い楽しいワイズライフを送ることが出来ました。下半期もこんな触れ合いを持てることを期待しています。

2.各事業の主な成果

A.Yサ、ユース事業

ユースコンボケーションの壮行会、報告会が名古屋グ

ランバスクラブ主催で持たれました。今夏マニラで開催されるアジア大会でのユースコンボケーションにも多くの若いリーダー諸君が参加して、視野を広めアジアの若い人たちと共に語り合える機会が増えることを期待しています。11月には、名古屋YMCAではチャリティーランが行われ、実行委員長を初め色々な分野で多くのワイズメンが協力し、今までにない成果をあげることが出来ました。3月20日には、昨年同様規模の名古屋YMCAでYYフォーラムを実施する予定です。



B.地域奉仕・環境事業

10月、東日本大震災で中京地区に避難されている方々のための「ふるさと交流会」が、日進市で開かれました。日頃の苦勞を忘れ、BBQ、ゲームなど秋晴れの日を過ごして頂き、共に楽しむことが出来ました。各YMCAが主催する街頭募金等にも多くのワイズメンが参加しました。

C.交流事業

9月に名古屋クラブが韓国聖岩クラブとのIBC交流会

を持ち鶴飼などを通して交流を深めました。南山クラブは、台北中正クラブと交流中です。金沢クラブは仙台広瀬川クラブとDBCを計画中です。

STEPでは、四日市クラブ推薦の大西慎太郎君が、ケニア、タンザニアで研修し大きな成果をあげました。7月に壮行会、12月に四日市クラブで報告会がありその記録に感動しました。若い感性で世界を見聞きし、STEP研修を通してYMC A、ワイズを見てきてくれました。3月20日に報告会を予定しています。多数の来場を期待しています。



D.EMC事業

4月に、米村謙一事業主任を迎えEMCシンポジウムを予定しています。

E.ファンド事業

ファンドの納付期限の徹底とJWF等のファンドの内容の理解を求め各クラブにアピール中です

F.メネット事業

中部には、メネットクラブを持つのは2クラブ(金沢、名古屋)しかなく、大きなイベントを計画することは中々難しいのですが、今期は11月に名古屋YMCAで行った「こころのケア」の講習会が好評でした。野村靖子事業主任の指導のもと有意義な講習会が開かれました。

8月の部会の折には、部会に先立ちメネット会を開き、仙台YMCAの光永主事からDVDを見ながら色々な復興活動のお話をお聞きました。その後美しいヴァイオリンを聞きながら食事、合唱と楽しい会が持てました。



ワイズの○を広げよう!

Let's try anyway やって見なくてはい!

びわこ部部長 井之上 温代
(滋賀蒲生野)

今期は、表題の想いを叶えるために、びわこ部全体の親睦・交流を図りたいということからスタートしました。

8月25日「第15回びわこ部部会」は、東西日本区10部、47クラブ、200名以上の参加を得て部会シーズンの開幕にふさわしいワイズの楽しさを盛り込んだものになり、親睦こそが活動のパワーという想いを込めた部会でした。メンバーが活動する上で何より頼りにするのがメネットのパワーです。その堅実な活動を上げますと、まず8月のびわこ部会後に行われたメネット会、9月に長浜クラブでメネット例会が開催されています。メネット活動として草津クラブ



びわこ部 200 推進チームの精鋭メンバーです。

では、デコパージュ石鹸作り、びわこ部として11月に料理教室が今期も開催され好評でした。2月には、メネット事業の「こころのケア」の講習の予定です。

メンバー数について申し上げますと、7月に草津クラブ2名入会(1名再)、長浜クラブ1名、11月に長浜クラブ2名入会があり、いずれも未来を託せる30代の若いメンバーで、明るいものを感じたのは私だけではないでしょう。下期スタートの1月には複数クラブで入会式がありますのでこの上向きの状況を続けていけるよう「びわこ部 200 推進チーム」が応援します。

この「びわこ部200推進チーム」は、びわこ部全体のクラブ強化・メンバー増強を図るため今期に立ち上げました。今年度だけでなく長期展望を持って確実な実りを求めています。既成概念にとらわれることなく柔軟性を持って沢田正夫委員長をはじめ部内きってのパワフル委員の皆さんに期待が大です。

7事業の研修をすべて持つことが当初の計画にありました。ワイズメンズクラブだけでなく、公私ともに忙しいメンバーの方々ですので考えました。年4回の評議会の後に研修会をセッティングしました。7月にEMC・交流・広報を開催し、11月には、Y'サ・ユース・EMC・地域奉仕・ファンド事業を、西日本区の各事業主任にも出席・応援していただき開催しました。西日本区研修会での内容の再確認・また各クラブの情報交換になり、有意義な研修になったことと思います。

地域奉仕・環境事業については、各クラブの継続的な事業のお陰で、今ではすっかり市民権を得、ワイズメンズクラブの大きなPRになっています。彦根シャトークラブの第19回ワイズちびっこウェルネス大会、長浜クラブの市民病院クリスマスツリー設置等がその例で、もちろん新聞にも大きく掲載されました。



福島の子家庭を招待してクリスマス例会を開催しました

Yサ・ユース事業は交流事業とタイアップして行ったリーダー40数名を招待してのボーリング大会。リーダーとの



交流と親睦が目的ですが、交流の時でのリーダーの意見や質問に心地よいものを感じました。EMC側から考えてもリーダーOBをいかにYMCAやワイズと繋がらせていくか、今期努力して頂いています。未来を考える時、彼らの力が必須だということをもっと考えていく必要があるでしょう。

ワイズは、このように交流を通じて楽しく学び、生まれた親睦により様々な活動ができると思っています。びわこ部では初めての新年合同例会を交流事業として計画実施しました。

広報事業は、部内の情報の収集と対外的なアピールです。対外的といえは、まずホームページがあげられるのですが、7クラブのうち5クラブしか更新できていない状況

にあります。びわこ部としてのHP運営委員会を立ち上げました。委員長にはベテランの安田ワイズにお願いし、委員は、若手メンバーで構成しました。下期は、なんとかHPを前進させたく思います。



ファンド事業は、辻本昭主査によるアンケートの実施と研修会、部長通信等での呼びかけと、とてもきめ細やかに活動され、献金ゼロクラブが無いよう頑張っていたいでいます。

毎月初めに発行しています「部長通信」ですが、部内の情報発信の一つとして、また、活動の報告・区からの伝達等様々な原稿で構成しています。私自身、各クラブの活動に今まで以上に目を向けることが出来、良かったと思っています。

最後に、東日本大震災における支援活動は西日本区

においても支援目標とされていますが、びわこ部各クラブでそれぞれの想いが形となっています。滋賀蒲生野クラブは、例会ごとに献金を、草津クラブでは、クリスマス祝会に福島の3家族(避難を余儀なくされ滋賀に住まい)を招待されました。悪夢のような災害からもうすぐ2年になりますが私たちは、忘れることなく共に生きていきたいと心から願っています。



向き合った前期 整える後期

京都部部長 船木 順司
(京都トップス)

2012年6月24日(日)京都YMCAリトリートセンター開設ワーク、京都部は新たな期が始まります。次期部長として一年間、部役員を努め、様々な経験や気付きを得、これを糧とし私の部長期がスタート。京都部18クラブの皆様と向き合う事から始まりました。部長公式訪問、西日本区各部会、京都部事業懇談会、クラブ例会やイベント、委員会と目まぐるしい日々が続き、私の能力と時間の許す限り駆け回りました。半期を終え私なりに感じた事や事業報告を下記にてお知らせ致します。

京都部長としてのメイン活動であるクラブ公式訪問

自クラブを除き17クラブの訪問を終了し、ワイズメンズクラブの『おもてなしの心』を痛感しました。しつらえによるお迎えには恐縮するばかり、成熟したクラブ、成長過程のクラブ、それぞれに個性が有り興味深い出来事が多々ありました。それぞれのクラブには過程が有り紆余曲折し、向上のために何をするべきか模索されている事を肌で感じました。京都部は各クラブの個性を理解し、向上への一助をなす努力を惜しまない事を改めて痛感いたしました。



西日本区9部の部会訪問

各部の部会を訪問させて頂き、なる程こんな部会も良いなと思う事が多々ありました。私には京都部の部会が根底に有り、その対比で始まりますが、とんでもない勘違いでした。各部の思いや歴史を背景とし、作り上げられる部会。特に印象深かったのが阪和部部会、ユースがユースによるユースやワイズのため部会、いい経験をさ

せて頂きました。自身の浅はかさや未熟さを思い知った部会訪問でした。

京都部事業懇親会

7事業全ての主査に今期は複数回の懇談会を必ず開催して頂きたいとお願いし、実行しております。

YMCA サービス・ユース事業

3度の懇談会により、今期京都部の柱ともなるユース支援に付いての議論を重ねていただいております。過去京都部会計にて予算化していたグローバルコミュニティスタディーやユースコンポーション等を各クラブの協力金にて今期も行う事ができ、ユース組織の発足も間近になり、京都部の歩みにも変化が生じてきました。



難しいな!誰がやるの!無理でしょう!なんて言葉を色々な場面で耳にします。しかし、やってみなきゃ分からないでしょ!と言い続けたい。後半も激しい議論を重ねてゆきたいと思います。

地域奉仕・環境事業

今期自クラブより地域奉仕・環境主任も輩出され、各部会へ同行し蚊帳を吊りまわりました。皆さんご存知、国際 UGP 5カ年計画ロールバックマラリア事業です。日本とは違いアフリカの蚊は大きく蚊帳の目も大きい、素材には蚊を退治する薬が塗りこまれているのです。京都部では、部会と AIDS 文化フォーラムにて、主査と主任が大活躍いたしました。懇談会に於いても主査がメイン事業と紹介し、ロールバックマラリアの詳細な説明。国際 UGP 5カ年計画ロールバックマラリアを知らないワイズメンは皆無でしょう!?

EMC 事業

部長公式訪問、西日本区 9 部とも、話題に成るのはメンバー増強、京都部も喘いでおります。昨年 3 月に 500 名に到達しましたが、今期前期半年報 494 名でスタート 1 月には 500 名に再び到達。2度の懇談会により主査による E・M・C に付いてのレクチャーや各クラブのメンバー獲得の手法が披露されました。やはり MC の濃度によりメンバーは増強し、結果 E に繋がる事を再認識しております。こもれ話ですが、京都部にはメンバー数 100 名を目指すクラブが複数あります。その目的はとお聞きすると、あるクラブのメンバーが言いました。『100 名にして 3 つ

のクラブを同時チャーターしたいな!』目標と目的が有るから目指せるんですね!楽しみです。

ファンド事業

今期 2 回の懇談会に西日本区主任を迎え、国際、アジアエリアの観点からファンド事業の現状をお話頂きました。東西日本区の役割は強いリーダーシップを発揮する事です。様々な障害を凌駕する強い意志と行動力が求められています。京都部各クラブも同じことですね。そして、使用済み切手を部単位で第二回懇談会に於いて集められました。一つのクラブではなかなか集ま



らないものの部単位になると集まるものですね。集計が楽しみです。毎回懇談会の後半は各クラブのクラブ内ファンドの紹介とクラブ間でのファンド交流話に花が咲きます。年々クラブ間でのファンド商品の紹介採用が増えています。各クラブが良いファンド商品をそれぞれ受け入れる。まさにファンド交流が盛んになってきた京都部。もっともっと盛んになれば楽しいですね!

交流事業

ファンド交流が盛んになりつつ有る事は上述の通り、クラブ間交流は以前より合同例会や共同イベントは多くある京都部です。今期は初めて合同例会を持ったクラブもあります。広がりは無限です。楽しい交流を続けましょう。IBC・DBC 締結は今期九州部部会で京都 ZERO クラブと阿蘇クラブを皮切りに、3 月 3 日京都グローバルクラブと宇都宮クラブが締結、西日本区大会では 2 クラブが DBC 締結と報告頂いております。今期 4 クラブの DBC 締結になります。ZERO クラブの締結式に参加し感動を覚え、涙腺が緩んだことを思い出します。素晴らしかった。あと 3 回も経験出来ることを誇りに思います。

広報事業

今期広報事業主査の下に PR 委員会が発足しました。前期 2 月より委員会が毎月開かれております。京都部 HP の刷新、フェイスブックの推進のため京都部の皆さまが正しく楽しく使える様にと委員の皆さまが日夜知恵をしぼって頂いております。次々期より西日本区では継続的な活動が必要と交流事業を情報委員会とする事が決定し、京都部ではその時期に慌てるのではなく今からノウハウを積み上げて頂いております。ワイズメン

ズクラブ PR に付いては、主査が各クラブイベントにワイズ旗を担ぎ細かな心使いで外部の皆様へアピール、このような地道な活動が必ず身を結んでいるのだと思います。後半も地道に PR!

メネット事業

メンバーを支えるメネットの皆様、主査が常に各クラブのメネットの皆様と交流を交えメンバーの力添えを訴えて頂いております。大きな事業はなかなか難しいのが現状ですが、心のこもった活動を常に心がけて頂きメネットの皆さまとの楽しい交流を心掛ける事を主眼に。メネットの事業活動こそがメンバーの力を引き出す原動力だと思っております。メネットの皆さまと楽しく歩みましょう!

常に皆さんと正面から向き合い話し合えたと思います。多くの気付きを頂き、楽しませて頂いた前期でした。後期はこの経験を生かし京都部の更なる飛躍の一助を担えれば幸いです。皆様有難うございました。そして、後期も宜しくお願い致します。感謝



半期を終えて

阪和部部長 正野 忠之
(大阪市内)

昨年の新年は、次期役員研修会に向けた緊張感でいっぱいだったように憶えています。いよいよという思いに胸が膨らんでいました。これを書いている今は、半年が過ぎたという実感がありません。と言うよりは、もう半年しかないのかという思いでいます。何ができたのだろう、何が伝わったのだろう。生意気にも阪和部長をやってみたかったと口にした自分。「元気に。みんなで。」掲げ、阪和部が持つ大阪・奈良・和歌山の地を駆け回りひとつにしたいと願った7月のスタート。公式訪問からずっとメンバーが減っ



阪和部会に参加したユースリーダーのみなさん

ている現状を訴え続けてきたつもりではいるのですが、あと半年でどこまで伝わるのか、10年後の阪和部へつながっていくのか、まだまだ不安だらけです。

いろいろな人が「部会が終わったら部長の仕事も終わったようなもんやなあ」と声をかけてくださいます。確かに部会の持つ大きさを実感しました。予定をはるかに超える来場者とユースリーダーの力に支えられ、やりたいことはやれたと思います。無事に終えられた達成感がありますが、部会で終わるなら、この責務、つまらないものだと思います。そう感じて、みなさんの声に反発するように、10月から12月は、行けるところへ行き続けました。残念ながら半期1度の訪問に終わったクラブもありますが、概ね3度のクラブ訪問をし、みなさんと顔を合わせることができたことは良かったのではないかと思います。

部会后、ユースリーダーとのふれあいをより深めるプログラムが阪和部各地で開かれました。和歌山では3クラブ合同で「リーダー慰労ボウリング大会」を、奈良ではYMCAとワイズが一体となったクリスマス会を開催し、ユースリーダーとワイズメンによる劇など一緒に楽しめる企画を作っていただきました。大阪でもリーダーを交えたクリスマス会が各所で開かれました。ユースリーダーとの距離感を縮めるご努力に感謝しています。



和歌山YMCAリーダー慰労ボウリング大会

EMC、地域奉仕・環境、メネットの3事業で行事が行われましたが、それ以外の事業でも、それぞれの事業主査さんが活動を行い、それが私の大きな支えになりました。特に、念願だった阪和部ホームページの活性化は、上半期で一番達成できたことです。広報事業は今やウェブサイト抜きでは考えられません。できるだけ利用価値のあるホームページを目指して広報主査に運営をお願いしましたが、クラブからの情報も集まるようになりました。

メンバー数としては3名の入会と2名の退会で微増です。阪和部にはメンバー数減少の危機感が、まだまだ足

りない気がします。対策を講じ、みなさんのお力をいただきながら、10年後の阪和部へつながっていけるよう、残り6か月も全力投球で参りたいと思います。



動く今、変われ、中西部

中西部部長 江見 淑子
(大阪なかのしま)

部長方針に照らして行う一年間の活動報告と成果については、第3回の区報に掲載することになります。今回はその中間報告として「目に見えない事」を記しておきたいと思います。

部の決議機関として評議会は年5回が予定されており、部からの報告やクラブ相互の情報伝達のためには「マンスリーレター(A 4、3頁程度を毎月1日に発行)」が発信されます。西日本区からの通信その他は会長を通して会員に届くように連絡していますが、まだ全員がパソコンを使うことを前提にはしないことを肝に銘じておかねばなりません。

7月 熟慮の末とはいえ、二つのクラブが解散しての船出です。メンバー22名の減少は現存する9クラブにとっても切実で、EMCのCに取り組む姿勢を変えられました。期の最初(7/16)にEMCフォーラムを開催し、各クラブの特長を振り返りました。どのクラブも「人材育成」に関して、計画や方法についての努力が希薄であることを突きつけられました。7人の主査は今期の切実な課題を持って、部長公式訪問に頻回の随行をなし、それぞれの事業からのアピールをしました。

8月 夏祭りのシーズンです。地域に貢献し、リーダーたちと共に働き、ワイズ活動が頼りにされている二つのクラブを誇りに思います。この絆がどのような実を結ぶのか想像するのは楽しいことでした。積み重ねの大切さを思います。

9月 中西部会ではユースと一緒に働き、変わっていくことを具体的に考える機会にしました。「教育の課題と変遷の振り返り、ワイズはそれができる」というメッセージの講演でした。

エンターテイメントがないプログラム構成には賛否が別れたかもしれませんが、しかし、異質なものに関わらなければ、自分もクラブも変化は起らないとの問いかけがありました。部会の前にYYフォーラム(9/1)を実施しました。



YYフォーラム

YMCAの公益財団法人への移行がワイズ活動にどんな変化をもたらすか。パネルディスカッションを中心に据え「分からないところを洗い出す」内容でした。YMCA職員の参加が多いのが印象的でした。

そうです、大阪YMCA職員との協働を広げるのは中西部の大きな課題です。

10月 チャリティーラン(10/8)、YMCAとワイズが共同しての行事で、滞りなく大きな成果を上げました。

11月 若者同士を繋ぐ、クラブを超えた活動をしたいと願いました。30周年記念を迎えるクラブがチャーター時のメンバーに呼びかけ、盛大に祝いました。よく見ると高齢化の中にも、複数のクラブには30代の若者が定着しているのです。



宮古に調査にでかけました。

12月 メネット会は独自性を保ちながら、部として協働作業をしています。時代と共に変化するメネット会の姿は掴みにくいのですが、パワーも人材もあります。9月の部会に先立って行ったメネット会で「こころのケアを考える」メネット主任の訴えが講習会(12/8)に実を結びました。大災害のみならず大きな変化に傷つく私たちの日常に必要なスキルを理論と実践から学びました。

1月 さて、滑り出して半年。ワイズの7事業の焦点の一つにして部を活力あるものにしようと思ってきました。東日本大震災への支援活動を継続的にやりたい。



宮古ボランティアセンターの日常活動を支えたい。東北の産業復興に微力を献げたいと中西部と大阪YMCAが協力して震災支援プログラムを準備中です。

夢 難題を見事にクリアして、多くのワイズメンと地域の人達とYMCAの働き人たちと共に笑いあいたい。新年会(1/19)の旗印にできれば幸いです。1月1日付の半年報には数字の良い変化はありません。しかしこの半年、水面下は確かに動いていました。ワイズメンたちの底力が形をとる後半になることを信じています。



楽しくなきゃワイズじゃない!

六甲部部长 上野 恭男
(声屋)

この、Four Seasons Rokkoubu は、六甲部行事、会議などの議事録を掲載し、六甲部の皆さんと共に歩んだ記録として発行し、区報に転載いたします。

飯田義雄次期六甲部部长の急逝を受けて、想いを全て受け継ぐと約束をして部長を上野が奉仕することになりました。その心は、飯田ワイズの想いに沿った形で懸命に努力してみよう、でした。そして、西日本区第1回準備役員会には柏原書記が代理出席し、西日本区のお役を果たせ何よりでした。



故飯田義雄ワイズ

六甲部第1回主査会

7月2日(月)には、7事業主査全員が集い、これからの六甲部について熱く語り合いました。

六甲部第1回評議会&六甲部納涼会開催

7月14日(土)にログハウス・レストランで開催、いよいよ六甲部2012年度が始まりました。今年度の役員承認、準備役員会議事録承認などは型どおり進み、部長活動方針、会長、事業主査活動方針が承認されました。

続いて、講演「清盛がめざしたもの」と題し、NHK平清盛の時代考証ご担当の高橋昌明神戸大学名誉教授に講演をいただき、その後は久しぶりの8クラブ納涼例会で、ガーデンパーティを思いっきり楽しみました。



六甲部 EMC 研修会

8月14日、神戸クラブ例会を鶴丹谷剛EMC主査の発案で六甲部EMC研修会とし、米村謙一 EMC 事業主任を招き開催しました。～見つめなおそう、クラブ活動を!～と題した米村事業主任のスピーチ、そしてグループワークでのクラブ自己診断プログラムに夢中で取り組んだ研修会でした。

六甲部メネットアワー

9月8日11時から六甲部部会に合わせて宗利富士子メネット主査のもと、メネットアワーを開催しました。松田康之YMCA保育園園長より「東日本大震災復興支援神戸YMCAの取り組み」と題し講演をいただきました。

第11回六甲部部会

9月8日(土)13:00～19:30と6時間30分にわたる極めて長い部会を開催しました。ホテル竹園芦屋で開催した六甲部部会は、8クラブ会長のバナーセレモニーに引き続きYMCA副会長中道基夫の奨励をいただき、女性コーラス「プチ・ダ・プチ」の演奏を皮切りに宴あり歌ありの歌声宴会になりました。

故飯田ワイズの志を受け継いで150曲を収載した歌詞集を作りお配りしたおかげで、伴奏の3名のギターの名手は大繁盛でした。宴のあとはサライの大合唱で手を

組み輪になって「楽しくなければワイズじゃない」を心から思いながらの閉会でした。

EPJ 第1回ミーティング

昨年から開催され、エクステンションプロジェクトと題しEMCのEをめざそうと集まっています。六甲部の各部から人選し、7月23日と11月20日と2回開催しましたが、結論は出ていません。

六甲部広報担当者会議

9月20日に若林学広報主査の呼びかけで開催、8クラブのHPの整備が課題となりました。会議の結果要望して、神戸YMCAのトップページにワイズメンズクラブのバナーを作成していただき、ワイズへのアクセスが簡便になりました。

ファンド研修会報告

10月11日 濱崎進一ファンド主査により、神戸ポートクラブ例会に併せ開催しました。岡野泰和ファンド事業主任よりレクチャーを受けました。

チャリティーランを開催

11月3日に開催されたYMCAチャリティーランは快晴に恵まれて神戸しあわせの村で開催されました。

8クラブは、早朝からブースに貼りつき、餅つき、カレー、チヂミ、などなどの実演販売をしました。ラッフル券の売り上げともども200万円を超える貴重な寄金をYMCAに捧げることが出来ました。

六甲部交流事業担当者懇談会

12月23日に開催し石田由美子交流主任と共に岡山主査が8クラブ交流委員と意見を交換しました。



着実な活動が続く 瀬戸山陰部

瀬戸山陰部部长 福永 君二
(米子)

瀬戸山陰部5クラブは、姫路の2クラブを除き、それぞれの往来に1～3時間を要する地理的環境にあって、それぞれが地域に望まれ地域に根差した活動を展開することを旨として頑張っています。

今期半年の各クラブのトピックスを紹介します。

姫路クラブ

4月からNPO法人として生まれ変わった姫路YMCAを支え活動しています。姫路YMCA太子キャンプ場を拠点にキャンプ場のワークキャンプやキャンプリーダー交流

会、姫路YMCAとの「ひめじ国際交流フェスティバル」参加、姫路YMCA会員の集いの企画運営、エイズデーPRへの参加など、会員8名ながら堅実な活動を続けています。会員増強が今後の課題です。



姫路:ひめじ国際フェスティバル

姫路グローバルクラブ

姫路クラブ同様、姫路YMCAをサポートしています。ことに、20年間続くカンボジア歯科指導(歯磨き)ツアーを支え、今年も2名のリーダーの参加費を補助するとともに参加者全員の保険加入を支援しました。後期に向けては、部行事としてDBCを結ぶ仙台青葉城クラブと協賛で3月に1泊2日の仙台被災地応援ツアーを実施します。



姫路グローバルカンボジア歯磨きツアー壮行会

岡山クラブ

33名の会員数を誇る岡山クラブは、DBCを結ぶ福山クラブとの交流納涼例会、東日本大震災避難者支援、善隣館「秋祭り」「クリスマス会」参加、岡山YMCA会館及び隣接公園トイレの清掃活動、岡山YMCAコミュニティーバザールへの参加、釜が崎野宿者支援など今期も活発に活動しています。また、昨期西日本区メネット事業として支援した「豊島神愛館」を地元クラブとして継続支援を行います。

鳥取クラブ

活動拠点としていた鳥取市湖山のYMCA会館からの撤退や会員の高齢化など暗いニュースが続いていましたが、鳥取駅南に新しい活動拠点が与えられ、今期に入り新入会員が3名と元気を復活させています。新しい活動拠点の看板は、子クラブである米子クラブからプレゼントさ

れました。米子クラブとの合同例会(部長訪問)や TIME (とっとり国際交流連絡会)との連携プログラム、車いすマラソンの給水サポートなどの活動を展開しています。



岡山:前隣館クリスマス



鳥取:鳥取・米子合同例会(部長訪問)

米子クラブ

部長輩出クラブとして、評議会・部会の開催に精力を傾注しています。また、今期、米子クラブ設立 15 周年を迎え、瀬戸山陰部会に合わせて設立 15 周年記念例会を開催しました。また、日常の活動として、YMCA 米子医療福祉専門学校学生との中海清掃活動、YMCA 米子医療福祉専門学校学生のマレーシアスタディーツアー支援、DBCを結んでいる神戸クラブとの交流会、DV被害者支援活動などを行っています。部会では、戦後の設立・撤退から再興なった米子YMCA・米子ワイズメンズクラブの姿を皆様に知っていただくことができました。



米子:DV 被害者・ゲストを迎えてクリスマス例会

瀬戸山陰部としての新たな取り組み

岡山YMCAが運営する学童保育プログラムを支援するためベルマーク運動をはじめました。この運動は、YMCAの運営する幼稚園や保育園を直接支援する新たなファンドの形態として、他の部にも展開できればと考えています。



ワイズ増員体制の本格化

西中国部部长 赤羽 克秀
(広島)

2012年度ほど、ワイズメンズクラブの諸行事に積極的に参加したことはありません。9月の西中国部部会では「広島風お好み焼き競演」の審査委員長を務め、成瀬晃三理事をはじめとする西日本区の役員諸兄手作りのお好み焼きの出来栄を目と舌で審査いたしました。

11月の「チャリティーラン」には、ランナーとして、また調理人としても参加しました。トン汁400人分の「ごぼうのさがき」に挑戦し、昔とった杵柄ならぬ鉛筆を小刀で削っていた子供の頃を思い出しながら、20本あまりのごぼうの下ごしらえをしました。



ランナーとしては初めての参加で、しかも第一走者でした。広島YMCAのスポーツセンターで時々パーソナルトレーニングを受けているとはいえ運動不足の毎日です。若干の不安もありましたが、スタート前に救急救命法の実演があり、救急法の先生も顔見知りでしたので、いざという時も大丈夫だろうと思いながらスタートしました。宣言タイムレースなので、走らなくても良いと言われましたが、そこはそれ皆さんが走り出すとついつい「負けるものか」と走っていました。無事第二走者にたすきを渡した後の、肩で息をしながら食べた、ごぼうとじゃがいものたっぷ

り入ったトン汁の味は格別でした。西中国部7クラブからも、ランナーとして、応援者として、またトン汁の味見役として多数のワイズメン・メネット・コメット・孫メットが参加していました。イベントは、実際に参加してこそ楽しさを体感できると実感した一日でした。声を掛け合って、今まで不参加であったメンバーにもぜひ「楽しさ」を共有して欲しいと思います。



さて、今期も上半期が終了しようとしています。できるだけ先頭に立って活動し、参加を呼びかける努力をするように心がけています。しかしながら参加メンバーが固定化しているクラブやメンバーが10名に満たないクラブも複数あり、ここ数年の課題は残ったままです。昨年の西中国部EMCシンポジウムでのアンケート調査を見ると、各クラブとも5名程度は増えそうな結果が出ていたので下半期の皆様のEMC努力に期待しています。クラブ内の増減はどこでも起こる現象だと思いますが、「増」が無く「減」ばかりが続いているクラブに何か問題点は無いのか、解決できる方法は何なのか等々、腹藏無い意見をメンバー全員にヒアリングをする時期に来ているのではないかと感じています。東広島クラブの例会に部長訪問をした際、久々に入会予定の方が同席されており、みなさんがいつもより張り切って、明るく楽しそうな印象を受けました。やはり新しいメンバーは必要だと改めて思いました。下半期の最も大きな課題はメンバーの増員です。メンバーが多くなるとYMCAのサポート体制、クラブの活性化等あらゆる問題が好転するはずです。次期理事を輩出する部としても、より多くのメンバーで理事を支えるようにしたいと願っています。



部長報告(7月～11月)

九州部部长 福島 貴志
(熊本)

部長主題:つながろう地域とY 伝えようワイズスプリット Yサ・ユース事業

10月6日～8日にかけて、阿蘇YMCAにて全国リーダー研修会が開催されました。Yサ事業資金の援助を受けて、九州部として参加することができました。このような研修会を通じて、脈々とYMCAの活動が次のリーダーへ受け継がれていくことも実感する中で、そのサポーターでもあるワイズ運動は、リーダーからサポーターへ移行する場としての提供が、もう一つ必要なのかもしれません。まだまだ、リーダー自身も私たちの活動を理解していないのではないかと感じています。今後の課題として考えていかねばなりません。

地域奉仕・環境事業

九州北部豪雨災害被災児招待「あそぼうキャンプ」が9月15日～17日阿蘇YMCAで行われました。阿蘇、東北被災児、熊本市龍田地区の被災児の子どもたちが40名参加し、ワイズメンズクラブのメンバーもリーダーとしてキャンプ初日から2名参加。16日の野外調理を担当し、子どもたちと楽しい一日を過ごすことができました。本プログラムは、ワイズメンズクラブ西日本区CS資金の補助を受けて実施されました。



EMC事業

EMCシンポジウム開催。クラブ自己診断プログラムの説明や活用方法について学びました。またパネルディスカッションにて、各クラブでご活躍の4名が登壇して頂き、クラブや個人の地域活動の想いやYMCAとの連携事例についてお話をさせていただく事ができました。

ファンド事業

安東邦昭ファンド事業主査から提案があり、「BFファンドの0クラブをなくそう」が承認され、ワイズの原点である使用切手収集活動やファンド事業への積極的な取り組みについて議論されました。また、評議会及び部会で、各

クラブファン্ড博覧会を実施しました。

交流事業

阿蘇クラブと京都 ZERO クラブの DBC 締結式が九州部会で行われました。

広報事業

九州部ホームページを活用し、ホームページがないクラブのブリテンまた、活動をホームページにアップし、多くの皆様に見て頂いています。

メネット事業

熊本地区ワイズメンズクラブメネット交流例会を開催(主管:熊本クラブ)当日は 70 名を超える例会となりました。「こころのケアプログラム」東日本震災に被災された方の心のケアについて学びました。また、九州部会においてメネット

アワーにて「こころのケアプログラム」を開催しました。

・九州北部豪雨災害復興支援活動を YMCA と協働で実施(7/15 ~ 7/16, 7/28, 7/29)

・九州部内に災害対策本部を設置し、YMCA と協働で支援を行った。(934,353 円)

高円宮賞受賞(熊本クラブ)

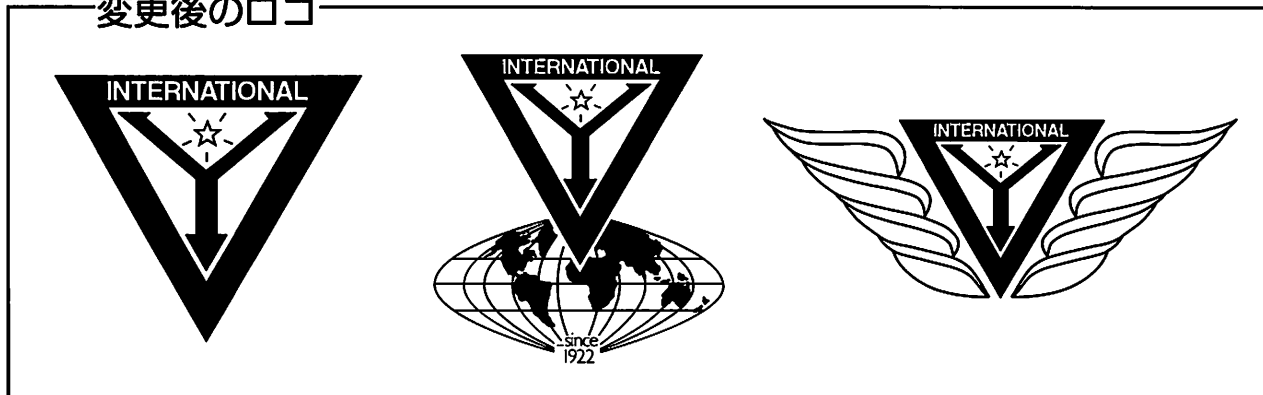
熊本クラブが、日韓青少年の交流活動を顕彰する高円宮記念日韓交流基金の高円宮賞を受賞されました。1981 年、熊本市の県立盲学校と韓国・大邱市の盲学校との交流事業を開始。スポーツや音楽を通じた交流を毎年夏に両市で交互に開き、視覚障害のある子どもたちに国際体験の機会を提供している事が評価されました。おめでとうございます。

—お知らせ— ワイズロゴ・エンブレムが変わりました

従来のロゴ



変更後のロゴ



常置・特別委員会報告



ワイズリーダーシップ 開発委員会

ワイズリーダーシップ開発委員長
藤井 久子 (神戸学園都市)

ワイズリーダーシップ開発委員会(以下LD=Leadership Development)は、1月の次期役員研修会と3月の次期会長・主査研修会の企画・運営に携わっております。



2012年8月18日(土)、「クライトンホテル新大阪」でLD委員会を開催。「LD委員として」のレクチャーと、昨年度のアンケート結果を踏まえ「次期に向けた研修内容について」の勉強と意見交換をいたしました。

2013年1月13・14日(日・月)、例年通り「クライトンホテル新大阪」で開催しました次期役員研修会が、皆様のご協力により無事終わりましたことに感謝申し上げます。

成瀬晃三西日本区理事の西日本区現況報告の後、岡野泰和国際議員の「国際協会の情勢と今後」、吉本貞一郎元理事の「役員的心得」、高瀬稔彦次期西日本区理事の方針発表をはじめ、様々なレクチャー、次期事業主任・部長の活動方針、懇談、親睦を深めるフェロウシップアワー等、次期への熱い時間が持たれました。

来る3月9・10日(土・日)は「チサンホテル新大阪」で次期会長・主査研修会を行います。貴重な時間と費用を要します研修ですので、前向きな気持ち・姿勢でご出席をお願い致します。

研修会は、ワイズメンズクラブの基本姿勢を今一度共に学び、区や各部・各クラブの運営をより良いものにするため、また次期役員(区・部・クラブ)の方々が自信を持って活動して頂くための力を養う場であると考えています。日

頃集まることの難しいメンバーとの時間に囚われないディスカッション・親睦がご自身のパワーと成ることを確信し、ワイズに対する情熱を発散させる場にしていただきたいと思います。また次期を担う皆様が一同に会する貴重な二日間ですから、クラブ・部の連絡に活用して頂ければ幸いです。皆様のご参加ご協力のほどよろしくお願いいたします。



委員会と活性化

組織検討・安全対策委員長 乙坂 優次
(京都トップス)

皆さんは『組織検討・安全対策委員会』って何をどうする委員会かご存知ですか?「何を今更!」って思われる方もおられると思いますが、私の周りの人たちに聞いても読んで字のごとくで詳しい内容まで知っている人はほとんどいませんでした。いかにロースターの色紙部分に目を通していないか、ということが分かります。

委員会規則の第2条に、『区の活性化と危機管理のための施策を整備し、区役員会もしくは常任役員会に提案することを目的とする。』と明記されているのですが、では『活性化』とはどんな事でしょうか。

昨今、EMC事業委員会及び2000推進チームのお働きで、徐々にではありますがメンバー数が増えてきているように聞いております。増えるというのは『区の活性化』にとって一番の源です。重鎮は入会者から若いエネルギーを得、入会した若者は重鎮から体験豊かな得がたい知識と智慧を得ることができます。でも、若いメンバーが増えて活気溢れるクラブがある反面、高齢化が進みメンバー数減少に悩んでおられるクラブもあるというのが

現状です。『その現状をどうするか?』それを考え模索して上部組織に提案するのがこの委員会の役割のひとつですが、施行細則や諸規則の改正・文言整理等に追われ、未だその役割を果たすまでに至っていないことを痛感致しております。

只、この現状を打破するには委員会だけではなく、皆さんの『力』と『智恵』を借り、西日本区メンバー一丸となって取組んでいかなければならないと考えます。10年後20年後を見据えて、今できる『何か』を考えてみて下さい。そして提案して下さい。総てのクラブに活気がみなぎれば区は活性化されます。

『組織検討・安全対策委員会』は区の運営に皆さんの考えが反映する施策を考え、上部委員会に提案し『活性化』の実現を促すことも目的としております。皆さんのご協力をお願い致します。

蛇足ですが、現在委員会では2014年度新施行の『広報・情報委員会規則』の策定に取り組んでおります。1年以上先ですが、早めに常任役員会に提案し、今期中には確定したものにしたいと思っております。今後ともご指導の程、宜しくお願い致します。



JWF は皆様からの大切な献金です

JWF 管理委員長 柴田 善朗
(京都)

成瀬晃三理事の強烈なご指導のもと今期もはや半年の月日が経過いたしました。浅岡徹夫直前理事からの懸案事項のひとつである「西日本区の改革」として、簡素化への取り組みがなされています。

JWF への献金の取り組みは、従来からファンド事業主任のご指導のもとに行われてきました。西日本区の多くの方々のご協力を得て、現在その総額は3000万円を超えました。このことについては昨年の区報にてご報告させていただいた通りです。

JWF 管理委員会は皆さまから献金いただいた「大切なお金」がいかなる理由があろうとも「規定にそぐわない、間違った使い方」がなされないように厳重な管理を所掌する常置委員会として設けられています。本委員会は理事をはじめ6名の委員で構成されていますが、預金通帳は委員長の名で印鑑とともに区事務所にて厳重に管理されています。委員長は責任の所在を明確にするため印

鑑証明を提出しております。

JWF の管理された献金が「使うことの出来ないお金では?」とお声には機会を通じて申し上げて来ましたが、「ワイズメンズクラブ発展のために使用することと、必要な手順に瑕疵のないこと」が求められますが、「使うことの出来るお金」であることは明確です。

西日本区役員会においては簡素化のひとつとして「JWF 献金のお願いや集めること」についてはJWF 管理委員会が行うことと前期の代議員会で可決されました。

いろんなお役を承ることは、一般社会でも同様に責任が常に伴います。我々の組織においても大小の差こそあれ金員の管理には二重、三重のチェックが必要です。「脇があまりぞ」という言葉を聞く度に考えるのは、代議員の皆さまが代議員会で質問をされず、ややもすれば「何でもオーケー」で可決かと危惧することがあります。時代がすみ変革の時代です。私たちのすばらしい組織を発展させるためにも納得の出来ないことは何度も質問するよう努めようではありませんか。それは代議員会での質疑や決定事項は、全クラブのメンバーが理解しているべきだと思うからです。



各部に似合った新体制 2000推進チームへ

西日本区 2000 推進チーム委員長
大岩 英人 (京都グローバル)

2000推進チームが発足してかなりの年月が経つにもかかわらず、2000推進チームって何をしてるんだろう??どんな活動をしているのんだろう?? EMC のアピール隊??ましてや、2000推進チームって意味があるの??など少なからず耳にすることがありました。歴代委員長はじめ委員の皆さんの地道な活動により会員数は微増ではありますが増加傾向にあります。発足当時作成された『DVDで学ぶ例会のもち方』、『奉仕活動へのアプローチ(新入会員オリエンテーション資料)』を基に各クラブ各メンバーの意識改革を訴えつつ、会員増強の重要性をアピールしてこられました。その結果、会員増強をしなければならない、という事はほとんどの会員の頭の中に芽生えていると思います。しかし、どのようにすれば会員増強に繋がるのか、どのようにすれば退会防止に繋がるのかというところが皆さんの悩みではないでしょうか。会員増強、退会防止の方法は一つではありません。何故なら各部、各クラブによって地域性、活動内容、メンバー構成等々、千差万別です。よって

今後の2000推進チームの活動は各部、各クラブに合ったより細やかな活動、啓発活動が必要だと思えます。その事を踏まえ、今年度は西日本区を4つのブロックに分け、各ブロックには各部から委員さんを輩出させていただきました。そして、11月にEMC事業委員会と2000推進チームブロック長の方々とで委員会を開催させていただき、その場で様々な前向きな意見交換をさせていただきました。その結果、既に発足している部もありますが、各部において〇〇〇推進チーム等の組織を立ち上げていただくとの事で、意見が纏まりました。早期に全ての部において〇〇〇推進チームが発足されることを願っております。そして各部の推進チームと連携を密にし、EMC事業委員会とともに、各部EMC事業主査の皆さん、各クラブのEMC委員長の皆さんのご協力をいただきながら、早期2000名達成に向けた活動をしていきたいと思っております。新体制の2000推進チーム委員会にご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。



これからのワイズ間コミュニケーションと情報収集について

情報委員会委員長 荒川 恭次
(名古屋グランパス)

西日本区ホームページを見ていただければ、長々説明するまでもなく情報委員会のメイン事業の進捗状況はご理解頂けると思えます。定期刊行誌、理事通信を毎月発行(アップ)し、事業主任からの事業通信等の最新情報のタイムリーな発行等々、ワイズ情報発信ツールとしての機能を大いに発揮しています。情報委員間のインターネットを活用した相互連携もスムーズになってきました。

そして、最近お気づきかと思えますが、区ホームページのワイズメンズクラブ情報ページで「f」マークが目立つようになってきました。これはワイズの間で盛んになってきた「Facebook」のマークです。Facebookは当初学生向けに特化してスタートしたSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)サイトで、2004年にアメリカでスタートし、2008年(平成20)には日本語版も開設されました。インターネット接続したパソコンやスマートフォンなどからアクセスします。「友達や同僚、同級生、仲間たちと交流を深めること」を目的としているのが特徴の一つで、新たな出会いを求めることもできますが、むしろ実生活で連絡を取り合ったり交流して

いる人とのコミュニケーションに主眼が置かれています。ワイズクラブ間コミュニケーションにはぴったりのツールです。また140字以内の短文のみに対応する点が特徴のTwitterも、日本では「つぶやき」と訳され、ブログと電子メールの中間的な位置づけのコミュニケーションツールとして大きく普及しています。

これらは一般的なメールとは別に猛烈な勢いでユーザーが増加しています。背景にはスマートホンの普及が大きく影響していると思われます。今やdocomo等のキャリアのショップに行けば、これまでの携帯電話は隅の方に追いやられ最上席にはスマートホンがずらりと並んでいます。それに年々倍々と増えており、このまま行けば携帯電話は恐竜のように絶滅し、スマートホンにすべて置き換わる日も近いような気もしますが、現実はその保有率を見てみると、18歳から50歳代で91%を占めており、我ら60歳代以上のシニア層の保有率はわずか9%に過ぎません。実際にスマートホンを手にとって見られた方はお分かりでしょうが、小さな画面に細かい字がびっしり。老眼の進んだシニアたちには判読不能です。さあどうしましょう。心配ご無用です。最近は携帯に便利なスマートホンより画面の大きな7インチタブレットが普及しつつあります。

今までのように「部屋で一人パソコンの前にデンと座ってやおらインターネットに接続し…独り言つぶやいている…」ではなく、我ら老眼のシニアでもタブレットを持って外へ出ることも可能となりました。「Face to Faceがコミュニケーションの基本」は過去より言われており、パソコンの普及がそれを阻害していると言われ続けていましたが、それも昔の出来事となる日が近いのかもしれない。

さて、次々期には情報委員会と広報委員会との合体が予定されています。どのような組織でどのような事業を展開するかは、まだ具体的な議論が始まっていませんが、内へ向けての情報発信、社会に向けての情報発信(広報)。そしてワイズ間コミュニケーションは、メール・Facebook等のツールとパソコン・スマートホン等のハードを活用して、正確でタイムリーな情報共有と発信等、その時代に合った事業展開を考えたいと思えます。

さあみなさん、近所の本屋でFacebookの参考書を手に入れてポツポツ始めてみませんか。



人は温かな善意で育つ

理事事務局長 谷川 修
(名古屋)

緊張と不安な気持ちのまま、船出して半年が過ぎました。前半期の重要かつ最大のプログラムといえば、やはり部会でしょうか。理事とともに、初めて9部会すべてを回らせて頂き、西日本区の全体像を多少なりと理解できたように思います。聞いてはいましたが、各部会それぞれが、部長を中心とした部会実行担当者の思いが結集された個性あふれる新鮮な内容でした。共通しているのがホスピタリティー。どの部会でも温かに歓迎くださり気持ちの良いひと時を過ごさせて頂いたことです。今季は、前期に引き続いて東日本大震災復興支援募金を目標額200万円と定め、部会の場でアピールし献金を募らせて頂きましたが、多くの皆様の志が50万円へと結実いたしました。ご協力ありがとうございました。

さて、みなさんは新しい年をどのようにお迎えになられたでしょうか。私の職場は社会福祉施設です。保育園も2ヶ園経営しておりますが、退職した某保育士の自宅に、生後間もない赤ちゃんを連れて、年始詣りに訪ねてくれた卒園児の話はとてうれしい話題でした。この卒園児の両親は、養護施設育ちでした。まだ3歳に満たない頃、母親が失踪し、父親が一人で苦労して育てられました。何度も、「もうみれない、施設に預ける。」という父親を説得し、時間外までいく度となく預かり、日・祝日には、その保育士が自宅で子どもを終日お世話し、保育園卒園後も、わが子・孫のようにその父子の面倒を見続けました。そのかいあって、何とか無事に成人しました。保育園職員、特にその保育士、何より、何度もくじけそうになりながら単



震災・原発事故による県外避難者交流キャンプ

身で息子を育て上げた父親に頭が下がります。そして、小さい頃にお世話になったとあって、奥様と、2世を連れすぎ焼きセットをもって訪ねる、よくぞ 恩義を忘れない、良き家庭を創る人に育ってくれたものと感動したことです。実は、多くのワイズメン・メネットが似たような働きをされているのだと思います。前号の区報の森本榮三ワイズの記事のようなエピソードを寄せて下さり、ワイズメンの素晴らしさを実感させてもらえたら何よりの喜びです。期待しています。

個人のことになりますが、震災・原発事故による県外避難者の交流会を一昨年8月から数えて7回開催、事務局を担当しました。YMCA、ワイズメンズクラブも協働の仲間として取り組んできましたが、ついに避難者自主グループが立ち上げられ、継続して交流会を開催していくことが決まりました。心の奥底に潜ませておられる思いは、聞かたびに新しい発見です。そして、何度となく顔をあわせ、共につくりあげる作業を通じて、心の通い合いが深まり、それは私の喜びともなっています。



ワイズメンズワールド報告

ワイズメンズワールド翻訳編集委員長
野村 秋博 (名古屋東海)

ワイズの名称変更にもいささか抵抗感がある。そして、ワイズでは自分の仕事の宣伝にはファインを覚悟させられた従来のワイズ活動のストイックさにひそかな誇りと魅力を感じてワイズにつながっていた自分にとって、最新の国際本部の動向には驚愕した。今年度の初めから、国際からの連絡は不規則になっていた。そうこうしていたら、通常のワイズワールド2号の時期に飛び込んできたのが、インド人ワイズが常務を務めているような。部厚い女性のためのセラピー業者の宣伝パンフレットで題して rayirath heritage AYUR RESORT などのものであった。机上に打ち捨てて1週間、遂に意に決して、訳さないことにした。意図的に委員としての任務放棄をしたことを報告します。国際本部からの公式ルートに乗って伝達されたことについて抗議します。

半年間、ワイズメンズワールド、ファミリーレーターと国際本部からの東北大震災への“ガンバレ日本”への応募に努めました。翻訳にあたっては美しい日本語と正しい日本語の使用に努力しました。



ターニングポイント!?

ヒストリアン・文献保存委員長
大槻 信二 (京都センチュリー)

成瀬晃三理事の「若者」「国際」「現場」の先頭に立ってワイズの光を輝かそうという強い理念の元、今期も前半期が終了致しました。8月に始まった各部部会も10月の九州部を最後に無事終了。7月の第1回に続き、11月の第2回役員会も開催されました。

それら一つ一つの出来事が、私たち西日本区の歴史となり、保存すべき文献の発生の源となります。本号の前に発行されている区報第1号並びに、本2号は、その中でも重要な保存文献と云えます。区報第1号では、これから始まる期に付いての、区役員・部長の皆様への今期運営に向けての「さあ、やるぞ!」の意気込みが、紙面より伝わります。投稿されている皆様にとっては常に、「初心に帰る」意味からも読み返して頂きたいものであり、読者の皆様にとっては、それらの方針・計画を共有すると共に、検証の材料ともなります。半期が経過した今発行される区報2号においては、1号で現された方針・計画と比較検討しながら、残された期に為すべき事を再確認する良い材料として頂きたいと思います。

さて、今回標題を考えるにあたってこの半期を振り返ってみました。私の担当する文献保存・ヒストリアンの立場からの重大事は、前期最終の代議員会において、2000年7月の変更以来、久々に西日本区の事業組織の改編が、承認され2014年7月から実施される事に決定した事です。(この間の2007年7月から、地域奉仕事業が、地域奉仕・環境事業となったという名称変更がありました)今期と次期は、この改編に向けた移行期といえます。この事は、将来において西日本区の歴史の1ページになるものですから、この改編時の思いや、理念を違える事無く、伝え残さなければなりません。

一方、国際協会においても、その勢力バランスや、時代の趨勢から、国際議員数の減員とその構成の中に、若者を組み込む国際憲法の改定投票が行われ、世界全クラブからの投票の結果、改定が承認されました。又、長年親しんだ、ワイズロゴとワイズエンブレムの簡略化も国際議会で決定し、即日実施となりました。

国際MYM(年央会議)で、開票・結果発表がされますので、本区報2号発行時には、その結果が判明している

筈ですが、国際協会の「ワイズメンズクラブ国際協会」から、「Yクラブ国際協会」への呼称変更に関する国際投票も、この原稿を書いている現在実施されています。

又、アジアエリアも前期より、韓国エリアと新生アジアエリアに別れ始動しており、来期にはアジアエリア会長を、私達西日本区から輩出することが決定しています。本年8月フィリピンで開催される第25回アジア大会の参加募集が行われていますが、その次、2015年8月開催の第26回アジア大会ホストを西日本区でという声もアジアの各地域から上がっていることを見ても、エリア内における西日本区の役割と責任も今までに増して大きくなっています。

と、この様に、私たち西日本区・国際・アジアエリアどれを採っても、転機に差し掛かっている様に思い、「ターニングポイント」という標題をつけさせて頂きました。

この様な組織としての大きなうねりに注意を払い、併せて、区内での出来事に対しても細心のアンテナを張り、勿論、東日本大震災復興への皆様のお働きを記録する事も含めて、与えられた文献保存・ヒストリアンの職務にあたって行きたいと考えています。



ぶれる

区報編集委員長 三浦 克文
(岡山)

政界、経済会にかかわらず最近よく聞く言葉に「ぶれる」があります。広辞苑など辞書によると「正常な位置からずれる」「ふれ動く」「カメラが動く」「スイングのとき軸が動く」「態度、考え方、方針などがあれこれと動く」などと書かれています。

年度を跨いで区報編集にまた、野村秋博YMW編集委員長から送られてきたYMWのまとめに携わっていますと、ワイズ全般に亘る各担当責任者の動きや、考え方を知ることができ、成果も見えてきます。己を顧み、学ぶことが多い幸いを感謝しています。常にワイズの基盤は、目的・モットーは、ワイズとは、と自問自答しながらの編集を心がけています。

今期も成瀬晃三理事の温厚な顔を目に浮かべながら原稿を依頼し、第2号発行にこぎ着けました。ワイズ活動がYMCA運動と共に「ぶれない」ように願う今日この頃です。

西日本区第1回役員会議事録

開催日時: 2012年7月7日(土) 13:00 ~ 17:20

2012年7月8日(日) 9:15 ~ 12:10

開催場所: ホテルクライトン新大阪

出席者: (敬称略)

<常任役員>理事 成瀬晃三、直前理事 浅岡徹夫、
次期理事 高瀬稔彦、書記 平野実郎、会計 渡辺真悟

<部長>中部 荒川文門、びわこ部 井之上温代、
京都部 船木順司、阪和部 正野忠之、

中西部 江見淑子、六甲部 上野恭男、
瀬戸山陰部 福永君二、西中国部 赤羽克秀、

九州部 福島貴志

<事業主任>Yサ・ユース 下村明子、
地域奉仕・環境 笠井俊明、EMC 米村謙一、

ファンド 岡野泰和、交流 石田由美子、

広報 吉村秀喜、メネット 野村靖子

<監事>財政 鈴木誠也、行政 仁科保雄

<常置委員会>JWF管理 柴田善朗、

文献保存・ヒストリアン 大槻信二、YLD 藤井久子、

情報 荒川恭次、区報編集 三浦克文、

組織検討・安全対策 乙坂優次

<特別委員会>クリスチャニティー 田上 正

<専任委員>YYL 下村明子

<小委員会>2000推進チーム 大岩英人

<理事事務局>

局長 谷川 修、局員 川口 恵、荒川恭次

<連絡主事>山根一毅

<オブザーバー>次期西日本区書記 益国隆人、

次期西日本区会計 伊藤 恵、

次期西日本区理事事務局員 山本晶子

定刻に開会

司会 書記 平野実郎
開会宣言・点鐘 理事 成瀬晃三
ワイズソングの斉唱 奏楽 LD 委員長 藤井久子

開会の祈り 理事 成瀬晃三

挨拶と活動報告 理事 成瀬晃三

常任役員会報告 理事 成瀬晃三

挨拶 直前理事 浅岡徹夫、

次期理事 高瀬稔彦

オリエンテーション 書記 平野実郎

出席者自己紹介

事業活動報告 現状と課題

Yサ・ユース事業 下村明子主任

主査研修会報告 YYフォーラムの日程、献金100%
達成を目指す。

地域奉仕・環境事業 笠井俊明主任

主査研修会報告 CS資金申請の補足事項の配布、
FF申請、RBMアピール。

EMC事業 米村謙一主任

主査研修会、事業委員会、2000推進チーム小委員会
報告。

ファンド事業 岡野泰和主任

「ファンド事業の手引き」を作成配布した。BF0ポイン
トクラブをなくす。部長、主査への協力依頼。「ファン
ド事業の手引き」のデータを文献保存、情報委員会に送
付。この種の文書を発行する場合、各事業主任は文献
保存と情報の2委員会宛に送るよう心がけて欲しい。

交流事業 石田由美子主任

事業委員会と主査会報告「例会を楽しく」、部会、西
日本区大会参加、事業活動内容の話し合い。

広報事業 吉村秀喜主任

事業委員会と主査会報告、キャッチコピー募集、部の
ホームページを充実させるため、統一的なコンテンツ案
を案内する予定。RBMをもっとPRする。

メネット事業 野村靖子主任

「こころのケアを考える」プログラム講習会を10月よ
り開始。クラブ例会にメネットを誘うことを奨励する。

議案審議

出席者確認 書記 平野実郎 議決権保有者 21名中
20名 出席により会議成立を宣告。

議長 理事 成瀬晃三

司会 書記 平野実郎

成瀬晃三議長が議案提案者の場合は平野実郎書記に
交代する。

【第1号議案】 第2回準備役員会議事録承認の件

議案提案者 書記 平野実郎

3号議案「第17回西日本区大会ホストクラブ及び開
催地について」のコホストクラブに広島クラブと呉クラ
ブの間に福山クラブを追記。承認

【第2号議案】西日本区事業「東日本大震災復興支援」
について

議案提案者 理事 成瀬晃三
支援金目標を200万円とし、支援先は役員会で審議。
承認

【第3号議案】12-13年度第1回役員会
第2日目 聖日礼拝における献金について

議案提案者 理事 成瀬晃三
東日本大震災復興支援金に繰り入れる。承認

【第4号議案】STEP事業の支援について

提案者 交流事業主任 石田由美子
四日市クラブの大西慎太郎コメントのSTEP事業参加へ、西日本区より資金援助(10万円)を行いたい。
承認

【第5号議案】事業委員会の改組に伴う西日本区定款
施行細則ならびに事業委員会規則の修正について

議案提案者 次期理事 高瀬稔彦
取り下げ

【第6号議案】地域奉仕・環境事業資金のFF資金を
CS資金と統合する件

議案提案者 次期理事 高瀬稔彦
協議とすべき内容であり、第8号協議議案とする。

【第7号議案】東日本大震災復興支援事業(仙台、石巻、
宮古)の支援について、TOF事業活用を図る件

議案提案者 次期理事 高瀬稔彦
TOFは国際事業であり、支援内容がことなる。岡野
泰和国際議員に国際の意向を確かめていただく。

【第8号議案】JWBF(西日本区ブラザーフード資金:
仮称)の創設について

議案提案者 次期理事 高瀬稔彦
第9号協議とする。

【第9号議案】「全国YMCAリーダー研修会」への支
援を西日本区と開催地の部にて行う件

議案提案者 九州部部长 福島貴志
「全国YMCAリーダー研修会」は九州部が開催部と
して支援を予定しているが、西日本区Yサ事業等との共
働が望ましい。同盟より、今後の開催計画が決まってい
れば、理事キャビネットに連絡する。承認
協議審議

【第1号協議】翻訳成果物の東日本への引き渡し

提案者 YMW翻訳委員長 野村秋博
(欠席のため平野実郎書記が代行)

昨年度に引き続き、YMW他、国際会長名発行のファミ
リリーター等の日本語への翻訳版を東日本区へも引き
渡す。これは、東西日本区連絡会議において、確認済み。

ファミリーリーターは野村委員長が自発的に行っておら
れる。感謝をもって報告。

【第2号協議】各種諸規則 事業委員会規則第4条(構
成)の理解について

提案者 次期理事 高瀬稔彦

次々期に現在の7事業主任制が5事業主任制へと変
更することに伴い、次期の事業委員会委員構成が3名に
満たないケースが想定される。補充委員は理事が任命
するとなっている。

組織検討・安全対策委員会の定款施行細則及び各種
諸規則の変更案の作成に合わせて、次回役員会で提案
を行う。

【第3号協議】JWFの運用について明示する件

提案者 次期理事 高瀬稔彦

JWFはワイズ発展のためのプロジェクトに資する資
金となっている、その運用とは何か、条文の変更を含め、
運用の根拠の確立をはかる。利息分の運用は、低金利
な現状では考えられないので、実際はJWF資金そのも
のの用途に関する運用について協議。

継続協議

【第4号協議】常置委員会、特別委員会、専任委員の組
織改変について

提案者 次期理事 高瀬稔彦

似た性格を有するものは整理し、機能強化をはかる意
味から現行の制度を改変する。組織検討委員会としては
検討も吝かではない。

継続協議

常置・特別委員会、専任委員報告

文書と口頭により報告

JWF管理委員会 柴田善朗、

文献保存委員会 大槻信二、

YLD開発委員会 藤井久子、

区報編集委員会 三浦克文、

組織検討・安全対策委員会 乙坂優次、

クリスチャニティ特別委員会 田上 正、

西日本区2000推進チーム 大岩英人、

情報委員会 荒川恭次

岡野泰和ファンド事業主任より、国際議員に就任その
立場で国際憲法の選挙についての報告。各クラブに1票
の投票権がある。9月28日締め切り、100%投票を願
いしたい。

協議審議

【第5号協議】バランタイム賞の推薦について

提案者 次期理事 高瀬稔彦

国際における西日本区の存在をアピールすることになるので、顕彰されるべきワイズメンの選考について、常任役員会に検討を依頼。 常任役員会で協議

【第6号協議】多重在籍の許可制の導入について

提案者 EMC事業主任 米村謙一

申し出のあるワイズメンに関して、諸条件等を勘案して理事の承認をうること、多重在籍を認める仕組みの導入を行う。EMC事業委員会で協議、常任役員会で情報収集。 継続協議

【第7号協議】区大会における事業表彰基準について

提案者 書記 平野実郎

ロスターに表彰対象となる献金締め切り日、基礎計算となる対象会員数などの必要事項を簡潔に掲載する。

【第8号協議】地域奉仕・環境事業資金のFF資金をCS資金と統合する件

提案者 次期理事 高瀬稔彦

性格の異なる資金であり、統合はしない。

【第9号協議】JWBF（西日本区ブラザーフード資金：仮称）の創設について

提案者 次期理事 高瀬稔彦

西日本区の公僕として身を捧げる人を区の全ワイズメンで支える制度、その資金を確立するため、JWBFを創設する。区主催の会長・主査研修会をもっと活用する。区の旅費支給基準は7割ということが固定されたものではなく、本来は100%支給が原則。区の財政事情から7割支給が現状。BFの目的は別。国際に送るBF資金の減少は避ける。

部活動報告 活動計画・実施状況・課題

中部 荒川文門部長

部会準備、ユースコンボケーション、STEPの派遣援助検討中

びわこ部 井之上温代部長

風の谷キャンプ場ワークでスタート、今期の重点：一部研修の充実、部200推進チームとホームページ運営委員会の新設、YMCAリーダーの縦型の組織化

京都部 船木順司部長

本年度の目標として、ユース支援を強くアピールし、ユース支援の考え方の基礎を築く。前期中に500名会員への回復を達成し、600名宣言を行う。

阪和部 正野忠之部長

10年後に確実に200名会員なるようステップづくりを

すすめる。部会はユースも実行委員に加わって一緒に作り上げる。主査が精力的に動き出している。

中西部 江見淑子部長

準備主査会を行い、主査にそれぞれの事業計画を出してもらった。新たな取り組みとして、来年2月に震災イベントを計画、準備会、実行委員会を開催した。被災地との支援を部全体で行う。

六甲部 上野恭男部長

新たに主査会を年2回開催、主査が主任の意思を伝え、それぞれ事業を執行できるサポートを部長として行う。スタート期に合同納涼例会を開催して部の一体感を高める。

瀬戸山陰部 福永君二部長

第1回評議会とともにEMC研修会を開催、会員増強をすすめる。ベルマーク運動を形にする。部会は米子クラブ創立15周年記念例会と合わせて開催。YYYフォーラムでYMCAリーダー支援を行う。

西中国部 赤羽克秀部長

主査それぞれが主題を立て、前向きに事業にむかっている。次期理事を輩出する部として、メンバーの増強、サポートできるよう、多様な方法によるファンづくりをすすめる。

九州部 福島貴志部長

熊本で開催される熊本連絡会議の研修会を九州部として取り組み、九州版LT委員会を開くことで、新規メンバーのワイズ理解をひろげ、ドロップアウト防止、更なる会員数アップをはかる。

日本YMCA 同盟報告 山根一毅連絡主事

「東日本大震災YMCA 救援・復興支援活動レポート」を配布し、DVD 報告を放映。

書記・会計・事務局報告

西日本区事務所 北村久美子事務所職員

病氣入院をするため、休暇の案内

監事講評

行政監事 仁科保雄

区の伝達事項は部長、主査、各クラブというルートをきちんと守る。議案は事前に精査をして臨むのが良い。

財政監事 鈴木誠也

主査の動きが活発との印象を受けた。部長と主任と主査の連携を密にして目標達成を望む。

YMCAの歌（全員）

閉会点鐘 理事 成瀬晃三

西日本区第2回役員会議事録

開催日時: 2012年11月17日(土) 13:00 ~ 17:30

2012年11月18日(日) 9:15 ~ 12:00

開催場所: ホテルクライTON新大阪

出席者: (敬称略)

〈常任役員〉 理事 成瀬晃三、
次期理事 高瀬稔彦、直前理事 浅岡徹夫、
書記 平野実郎、会計 渡辺真悟

〈部長〉中部 荒川文門、びわこ部 井之上温代、
京都部 船木順司、阪和部 正野忠之、
中西部 江見淑子、六甲部 上野恭男、
瀬戸山陰部 福永君二、西中国部 赤羽克秀、
九州部 福島貴志

〈事業主任〉Yサ・ユース 下村明子、
地域奉仕・環境 笠井俊明、EMC 米村謙一、
ファンド 岡野泰和、交流 石田由美子、
広報 吉村秀喜、メネット 野村靖子

〈監事〉財政 鈴木誠也、行政 仁科保雄

〈常置委員会〉JWF管理 柴田善朗、
文献保存 大槻信二、YLD 藤井久子、
情報 荒川恭次、区報編集 三浦克文、
組織検討・安全対策 乙坂優次

〈専任委員〉ヒストリアン・文献保存 大槻信二、
YYL 下村明子

〈理事事務局〉

局長 谷川 修、局員 川口 恵、荒川恭次

〈事務所〉 北村久美子

〈連絡主事〉 小野 実(山根一毅代理)

〈オブザーバー〉次期西日本区書記 益国隆人、

次期西日本区会計 伊藤 恵、

次期西日本区事務局長 渡辺悦司、

次期西日本区理事事務局員 國柄和弘、佐竹早苗

定刻に開会

司会	書記 平野実郎
開会宣言・点鐘	理事 成瀬晃三
ワイズソングの斉唱	奏楽 LD委員長 藤井久子
開会の祈り	江見淑子中西部部長
理事挨拶と活動報告	理事 成瀬晃三
挨拶	直前理事 浅岡徹夫、 次期理事 高瀬稔彦
出席者確認	書記 平野実郎

ICM2012報告 国際議員 岡野泰和

新ロゴ・エンブレム、国際状況の説明。基本はクラブの発展。2011年8月段階の勢力、日本が所属するアジアは世界で4番目の会員数。アジアエリアでは、西日本区が38.9%強で、期待が寄せられている。国際憲法改正案が提案の通り採択され、21人の国際議員が15名とスリム化。うち2名は30歳以下の若者。議員の任期は3年から2年。クラブ名称の変更についての国際投票が行われる。アジアエリアでは、エリア開発基金とともに、災害対応ファンドも新たに創設された。2013年アジア大会、2014年国際大会、2015年のアジア大会開催を西日本区でと打診されている。

事業報告 活動計画・現状と課題

YMCAサ・ユース事業 下村明子主任

事業委員会で献金100%達成の依頼を確認。中西部YYフォーラム、九州部全リ研、YMCA同盟青少年プログラムに支援済み。国際ユースインターンの募集は11ヶ月間スイスでワーク、1月末募集締切り。

地域奉仕・環境事業 笠井俊明主任

全部会で、RBMアピールブース設置とアピールタイムに感謝。九州北部豪雨災害被災児招待キャンプ、京都みやびクラブAIDS文化フォーラムに支援金拠出決定。

EMC事業 米村謙一主任

EMC集計がまとまらず、通信発行が遅れている。EMCフォーラムやシンポジウム等の報告。2000推進チームを各部署単位へ方向転換する。会員期首1,634名が11月1646名。

ファンド事業 岡野泰和主任

BF代表にフルグラント、パーシャルグラント各1名応募。BFポイント0クラブ解消のため、部でとりまとめ依頼。1月末が使用済み切手の最終締め切り、BF現金・EF献金の最終締め切りは2月15日。

交流事業 石田由美子主任

写真を中心にした事業通信を5号発行、ホームページにもアップ。大西慎太郎コメントからのSTEP事業報告書を提出。IBC、DBC締結の希望ある。締結先探しを協力

広報事業 吉村秀喜主任

クラブ活動等の地域メディア取り上げ情報は高槻クラ

ブ、金沢犀川クラブ。プリテンの送信・拝受状況の集計化。
クラブキャッチコピーの提案は数点。

メネット事業 野村靖子主任

11月3日に「こころのケアを考える講習会」を名古屋YMCAで開催。今後の講習会開催予定は、12月から3月にかけて5講習会を開催予定。広島、米子、九州での開催も準備中。

議案審議

議決権保有者 21名中 20名 出席により会議成立を宣告。

議長 理事 成瀬晃三

司会 書記 平野実郎

成瀬晃三議長が議案提案者の場合は平野実郎書記に交代する。

【第1号議案】第1回役員会議事録承認の件

議案提案者 書記 平野実郎

第1回役員会(2012年7月7日～8日)議事録の承認を頂き当該議事録の区報記載の了承を求める。

参加者名簿の役職欄を修正。第9号協議文面で00%支給を100%支給に訂正。

中西部部長報告の被災地交流を被災地支援に、六甲部部長名上野泰男を上野恭男に訂正 承認

【第2号議案】12-13年度第2回役員会 第2日目聖日礼拝における献金について

議案提案者 理事 成瀬晃三

第1回西日本区役員会の聖日礼拝における献金について、東日本大震災復興支援金に繰り入れる。承認

※都合により第9号議案を先に審議

【第9号議案】第15回西日本区大会 決算報告並びに余剰金処分案の承認を求める件

議案提案者 直前理事 浅岡徹夫

押谷実行委員長より説明があり、本年6月に長浜で開催した第15回西日本区大会における会計決算報告並びに余剰金の処分案についてご承認をお願いする。

第15回西日本区大会について下記の問題点を指摘された。

・余剰金353,998円をYMCAリーダー育成助成金へ303,998円、大会記念植樹に50,000円支出した件は、定款第20条西日本区大会第4項にある通り、役員会において協議・決定後、実行すべきであった。

・浅岡徹夫直前理事より本来ならば役員会での決定を必要とするが、事後報告になった事をお詫びし、承認を求めた。今後は、定款に則り実行することを改めて確認した。

また、今大会の収支をただ単に承認するのではなく、今後の区大会のありかたについて、広報活動など適切なルールづくりを進める。次回発行する理事通信と役員会議事録にはその旨報告する。以上の条件により承認。

【第5号議案】西日本区定款施行細則改正の件

議案提案者 書記 平野実郎

西日本区定款施行細則第7条 半年報について改正致しましたが、準備役員会にて書記報告のみとなり、ここで追認をお願い致します。

定款を改正する場合代議員会または役員会の承認を得なければならない。変更する箇所を、改正前と改正後を表記し説明しなければならない。改正日と施行日を確認。

改正前

第7条 半年報

第2項 半年報は、前期7月1日、後期1月1日現在の会員状況について各クラブから部長に報告され、区書記がとりまとめる。

改正後

第2項 半年報は、前期7月1日、後期1月1日現在の会員状況を部長がとりまとめ、西日本区事務所に報告する。

改正文言と改正日を2012年11月17日、施行を2012年7月1日とする。 承認

協議審議

6号議案を9号協議に訂正

【第9号協議】西日本区施行細則改正の件

提案者 組織検討・安全委員会委員長 乙坂優次

西日本区施行細則改正の件

前年度代議員会で組織改正が承認されたことを受け、関係箇所の文言の変更を提案します。

第9条の第1項事業を

・YMCAサービス・ユース事業、国際・交流事業、地域奉仕・環境事業、EMC事業、メネット事業

以上のように変更する。

第11条第1項

1. 事務所運営委員会 2. JWF維持・管理委員会

3. 奈良傳賞資格審査委員会 4. 文献保存委員会

5. ワイズリーダーシップ開発委員会 6. 情報委員会

7. 財務委員会 8. 区報編集委員会

9. 組織検討・安全対策委員会 10. 広報委員会

以上のように変更。

第11条第1項の6広報委員会は前年度代議委員会
で広報・情報委員会に変更となっていたので、訂正。

国際からEMC事業内でYESプログラム(Y's Extension Support)基金の協力要請があり、西日本区EMC事業内に取り入れて欲しい。第11条の10を削除し、6を広報情報委員会、計9委員会。JWF委員会の名称はそのままし、4月役員会で承認する。YESに関しては別に協議案を提出。

7号議案を10号協議に訂正

【第10号協議】西日本区各種諸規則改正の件

提案者 組織検討・安全委員会委員長 乙坂優次
各事業委員会規則の名称をつぎの通りとする。

- ①YMCAサービス・ユース事業委員会 ④国際・交流事業委員会 ②地域奉仕・環境事業委員会 ⑤メネット事業委員会 ③EMC事業委員会

JWF維持・管理委員会規則改正

第2条(目的)

本委員会は、西日本ワイズ基金(Japan West Y's men's Fund)を収集し、その基金の維持管理および運用を諮ることで、ワイズ発展のためのプロジェクトに資することを目的とする。

第7条(運用)

基金の運用は、慎重且つ厳密に精査しなければならない。

以上変更する。

JWF・維持管理委員会の名称はJWF管理委員会とする。第2条(目的)の文言を本委員会は、西日本ワイズ基金(Japan West Y's men's Fund)を収集し、その基金の維持管理および運用を諮ることで、ワイズ発展のためのプロジェクトに資することを目的とする。と変更するが、西日本ワイズ基金(Japan West Y's men's Fund)を収集し、収集の箇所が献金推進と代議委員会で承認されているので、その様に訂正。

事業委員会規則第4条第2項の委員が満たな場合は、その当該理事が任命する。

8号議案を11号協議に訂正

【第10号協議】西日本区各種諸規則改正の件

提案者 組織検討・安全委員会委員長 乙坂優次
JWF維持管理委員会の名称はJWF管理委員会とする。第2条(目的)の文言を本委員会は、西日本ワイズ基金(Japan West Y's men's Fund)を収集し、その基金の維持管理および運用を諮ることで、ワイズ発展のためのプロジェクトに資することを目的とする。

【第11号協議】各種諸規則(広報情報委員規則)新設の件

提案者 組織検討・安全委員会委員長 乙坂優次
各種諸規則(広報委員会規則)新設する。名称等再度検討し、次回役員会に議案提出する。

議案審議

【第3号議案】国際プログラムにおけるUS\$建てGOALの換算レート決定の件

議案提案者 会計 渡辺真悟
期初西日本区GOAL設定におけるUS\$建て国際プログラムについての換算レートをUS\$1=¥90とすることを提案します。これに伴いTOFメンバー一人当たり目標US\$16=¥1,440、BFメンバー一人当たり目標 US\$15=¥1,350とする。第4号議案が関連するため、4号議案と同一議案として審議する。

【第4号議案】 国際献金のドル換算レートを85円とし、国際への送金を献金のドル換算で送金し、剰余金は為替リスクに備え予備金として積み立てる。

議案提案者 六甲部部长 上野恭男
国際のドル換算レートが現在の90円では負担が多いため85円としたい。渡辺会計より資料を配布。

各種献金は全額国際に送金し、残ることは無い。国際送金には手数料等が発生するため若干多めに集める。ドル表示は、国際事業を認識して貰うため。任意献金のため未献金もあり、トータルで円ベース献金達成率は94~95%に留まっている。ドルベースではギリギリで達成しており、多い事はない。第3号議案文面を一部修正し承認。ドル建て換算レートを90円とする。各種献金達成率100%を目標に広報する。

【第10号議案】2012 国際ユースコンボケーション(IYC)報告書作成費用支援について

議案提案者 Yサ・ユース事業主任 下村明子
毎回ユースコンボケーション(YC)の報告書を作成しているが、今回も区より作成費の支出をお願いしたい。承認

委員会報告 活動計画・現状と課題

JWF管理委員会 委員長 柴田善朗

次期にはJWFの役目が変わる予定

文献保存委員会 委員長 大槻信二

西日本区のロゴの変形に注意して欲しい。

ワイズリーダー開発委員会 委員長 藤井久子

次期役員研修会の準備中。

組織検討・安全対策委員会 委員長 乙坂優次

定款施行細則改定及び各種諸規則改定を審議

区報編集委員会 委員長 三浦克文
区報第2号原稿を依頼 提出期限厳守

情報委員会 委員長 荒川恭次
区HPに事業主任通信をアップ

YMW翻訳委員会 委員長 野村秋博
書面にて報告

2000推進チーム 委員長 大岩英人
書面にて報告

聖日礼拝

献金の贈呈(2号議案承認済) 献金額 36,600円

【第11号議案】2013年8月開催のアジア大会に関する
オフィシャルエージェントの指名について

議案提案者 理事事務局 谷川修

2013年8月フィリピンにて開催のアジア地域大会の
オフィシャルエージェントとして(株)トラベルファイブジャパン
又は亜細亜交流旅行のどちらかを西日本区として指名
決定する。(株)トラベル ファイブ ジャパンを指名する。

承認

協議審議

【第1号協議】主査の手引き、連絡主事ハンドブック、クラ
ブ運営マニュアルの改訂について

提案者 LD委員会委員長 藤井久子

数年前から編集に当たっているが、現在と一致した物
を早急に発行したい。LD委員長、文献保存委員長、区
報編集委員長、理事キャビネットで検討。

【第2号協議】ワイズ用語集の追加について

提案者 LD委員会委員長 藤井久子

次期会長・主査研修会でワイズ用語の問い合わせあり。
用語を増やしたい。次期理事キャビネットで対処し、4月役
員会に提出する。

【第3号協議】ワイズエンブレム変更確認と区報本文の
文字を大きくする件

提案者 区報編集委員会委員長 三浦克文

ワイズメンズクラブ国際協会エンブレム・ロゴマーク変更
の確認。次回区報より読みやすいように文字を少し大きく
変更したい。区関係のエンブレム・ロゴ変更表示は今後
順次変更する。メネットロゴは変更なし。理事通信等で周
知徹底する。区報の文字はフォントを9ポイントから10.5ポ
イントに変更。

【第4号協議】次期における次期理事及びスタッフ(書記・
会計・理事事務局)に対するトレーニングを行う組織につ
いて

提案者 文献保存委員会委員長 大槻信二

事業主任と部長は、1月の次期役員研修会で研修を
受ける機会があるが、その時点で次期理事キャビネットは、
実質リードする立場にあるのに、各役職の引継ぎが十分
に出来ていないのではないか。仕事内容の混乱が起きて
いる現状があり、トレーニングの必要性の意見を聞きたい。
現理事キャビネットとLD委員長とで、今後のあり方を検
討する。

【第5号協議】次期キャビネットへ今期本会計より2,
000,000円を仮払いする件

提案者 会計 渡辺真悟

毎年役員会で議案を提出していたが、昨年西日本区
定款施行細則第8条第12項が変更され財務委員会が
提案し、理事の承認を得た事を報告します。

【第6号協議】JWF資金申請について

提案者 京都部部长 船木順司

毎年災害等もあり、このような場合の緊急支援としてJ
WFに申請をしたい。意見聞きたい。役員会、若しくは常任
役員会に提案して、協議後JWF管理委員会に決議を
依頼する。

【第7号協議】2015年8月開催アジア地域大会ホストノ
ミネートについて

提案者 理事 成瀬晃三

2015年8月に開催されるアジア大会のホストノミネート
の案内が来ているが、西日本区で受けるかどうか意見を
聞きたい。以前アジア大会とアジア事務所設置の打診が
あったが断り、フィリピンがホストを受けて頂いた経緯があ
る。順番的に西日本区で受けざるを得ない状況でもある。
西日本区で受ける方向で検討する。

【第8号協議】西日本区 EMC 事業に国際協会YESプロ
グラムを組み入れる件

提案者 ファンド事業主任 岡野泰和

国際協会にて展開されているYES(Y's Extension
Support)プログラム及びファンドを西日本区EMC事業に
組み入れる。過去西日本区でもクラブチャーター時にお祝
い金の形でアジアより頂いているので、西日本区でも協力
すべきではないか。EMC事業委員会で検討し、EMC事
業主任より次回提案する。

部活動報告 活動計画・実施状況・課題

九州部 福島貴志部長 書面にて報告。

西中国部 赤羽克秀部長 下半年活動報告。

瀬戸山陰部 福永君二部長

FF資金申請予定、部事業としてベルマーク運動を展

開。また、インクジェットカートリッジとテトラポットマークの紙パックを集める。

六甲部 上野泰男部長 各事業の報告。

中西部 江見淑子部長

各事業の報告、東日本大震災支援プロジェクトを実施予定。CS資金申請予定

阪和部 正野忠之部長 各事業の報告。

京都部 船木順司部長

ユースグループ発足に向け活動中

びわこ部 井之上温代部長

主任を招き、全事業研修会終了。びわこ部200推進チームを立ち上げた。

中部 荒川文門部長

Yサ・ユース事業のIYC報告会を開催。交流事業のSTEP報告会を四日市クラブで開催予定

日本YMCA同盟 東日本区連絡主事 小野実

(山根一毅にvari出席)

・Yサ・ユース事業支援金100万円のお礼と使途説明:地球市民育成プロジェクト、全国YMCAリーダー研修会、グローバル研修会、インスタディーツアー、学生YMCA夏季ゼミナールを9月に開催。参加者が増え、大きな成果をあげた。

・東日本震災関連:ワイズメンズクラブ東西区の支援金でプレハブが建設され、宮古ボランティアセンターが立ち上がった。

・ステップII研修 東西両区理事がワイズの講義。

書記・会計・事務局報告

平野実郎書記 半年報提出のお願い

渡辺真悟会計 聖日礼拝献金36,600円 集合写真献金17,001円報告。全て東日本大震災支援金に組入れる。各種献金の締切り期日厳守のお願い。援助金申請の報告書を主任に依頼。

理事事務局 谷川 修事務局長 メール配信を纏めて出す要望に対し説明。東日本大震災支援金のお願い

西日本区事務所報告 北村久美子

半年報と国際会長選挙のお願い。1月次期役員研修会での引き継ぎ準備のお願い

監事講評

行政監事 仁科保雄

西日本区大会の実行委員会は定款を確り確認して実行して欲しい。アジア大会ホストをできるだけ西日本区で受けて欲しい。プリテン発送は、切手を貼って郵送にして欲しい。

財政監事 鈴木誠也

理事キャビネット研修の時期を考えて欲しい。ファンド主任が積極的に使用済切手集めの奨励をお願いすることが望ましい。古切手との表現が見受けられるが気をつけて欲しい。アジア地域大会ホストを是非受けて頂きたい。

YMCAの歌斉唱 全員

開会の祈り 六甲部部長 上野恭男

閉会点鐘 理事 成瀬晃三

西日本区常任役員会議事録

日時 2012年11月17日(土) 10:30~

場所 ホテルクライトン新大阪

出席者 成瀬晃三、高瀬稔彦、浅岡徹夫、平野実郎、渡辺真悟

オブザーバー 鈴木誠也、谷川 修

①AYCに参加したユースの活動報告書の作成とその会計処理について

提案者 直前理事 浅岡徹夫

2011年のAYCに参加したユースの活動報告書を、当初東西日本区合わせて200部約14万円の予算で作成する計画であったが、西日本区役員会での指摘もあり発行部数を見直した結果、西日本区だけで約300

部に増刷する。今年6月末で報告書の配布と会計処理を終えた。 承認

②旅費規程について

提案者 会計 渡辺真悟

西日本区旅費施行細則(1)の⑦に記載の次期事務局員2名および別表注記*4に記載の事務局員は予め登録した者を対象とする。この件については各年の理事事務局よりの申し送り事項とする。

③東日本区大震災復興支援金について

提案者 理事 成瀬晃三

11月1日現在 ¥505,199

集った献金について、前後期と分け送金するが、宮

古ボランティアセンター並びに仙台YMCAに要望を確認した後、適当と判断した場合は送金する。また、送金後理事通信などで公表し献金を促すよう努める。

④エリアデベロップメントファンド委員選出について

提案者 理事 成瀬晃三
アジア地域の書記より「エリアデベロップメントファンド委員」(前アジア地域ファンドを韓国地域と折半した

ファンドを管理する委員)を西日本区から選出の依頼があり、今期は成瀬晃三理事が務める。今後、理事以外の者を必要となれば専属の担当者を決め任命する。

⑤その他

2015年8月のアジア大会ホストについて、今回の役員会で協議する。

編集後記

早や半期が過ぎ、次期への準備が着々と進んでいます。毎号のことながら、世情の変革時期の流れの中で、どのような原稿が入ってくるのか、楽しみながら待っています。

ワイズの働きそのものような原稿を見させていただくとき、極寒の中にもツクシが顔を出し、元気だよと言っているような温かい気持ちになります。

今年も大雪と厳寒の中、戦っておられる東日本大震災被災地の方々は……。

【区報編集委員会】

委員長 三浦 克文 (岡山)

委員 蔵知 武 (岡山)

委員 森本 榮三 (大阪高槻)

委員 平野実郎 (名古屋)

委員 谷川 修 (名古屋)

西日本区現勢

2013年1月1日現在

部	クラブ名	2013.1.1	2012.7.1	2012.1.1	増減
中部	金 沢	8	10	10	-2
	名 古 屋	28	27	27	1
	名古屋東海	20	20	21	0
	名古屋南山	9	9	9	0
	四 日 市	29	27	25	2
	名古屋プラザ	9	9	9	0
	名古屋グランパス	13	14	15	-1
	津	5	6	5	-1
	金沢犀川	6	6	6	0
小 計	9	127	128	127	-1
びわこ部	近江八幡	19	19	20	0
	彦 根	10	10	12	0
	彦根シャトー	28	29	29	-1
	長 浜	43	41	44	2
	草 津	17	17	17	0
	滋賀蒲生野	18	20	22	-2
	大 津	11	11	11	0
小 計	7	146	147	155	-1
京都部	京 都	30	31	34	-1
	福 知 山	7	7	7	0
	京都パレス	70	70	69	0
	京都ウエスト	28	26	24	2
	京都めいぶる	26	27	29	-1
	京都キャピタル	39	40	39	-1
	京都プリンス	17	16	16	1
	京都センチュリー	10	10	10	0
	京都ウイング	42	39	39	3
	京都洛中	16	16	18	0
	京都エイブル	17	16	15	1
	京都グローバル	61	59	57	2
	京都みやび	16	19	21	-3
	京都トップス	42	40	37	2
	京都トゥービー	30	31	27	-1
	京都東稜	17	18	17	-1
	京都ウエル	5	5	6	0
	京都ZERO	25	24	24	1
小 計	18	498	494	489	4
阪和部	田 辺	7	7	7	0
	和 歌 山	21	21	23	0
	奈 良	23	23	23	0
	大阪サウス	25	25	27	0
	大 阪 堺	11	9	10	2
	大阪河内	19	19	21	0
	大阪長野	7	8	8	-1
	大阪泉北	13	13	14	0
	和歌山紀の川	15	14	14	1
	小 計	9	139	139	147

部	クラブ名	2013.1.1	2012.7.1	2012.1.1	増減
中西部	大 阪	18	17	18	1
	大阪土佐堀	18	19	20	-1
	大阪千里	5	5	5	0
	大阪高槻	21	21	23	0
	大阪センテニアル	20	21	23	-1
	大 阪 西	16	15	11	1
	大阪茨木	17	17	18	0
	大阪セントラル	10	11	10	0
	大阪なかのしま	18	18	21	0
	小 計	7	143	144	166
六甲部	神 戸	19	21	21	-2
	西 宮	23	23	21	0
	神 戸 西	14	12	12	2
	神戸ポート	18	19	19	-1
	宝 塚	24	25	23	-1
	さ ん だ	17	17	18	0
	神戸学園都市	19	18	18	1
	芦 屋	17	17	17	0
小 計	8	151	152	149	-1
瀬戸山陰部	姫 路	8	8	9	0
	岡 山	33	33	33	0
	鳥 取	17	14	14	3
	姫路グローバル	14	14	16	0
	米 子	14	14	16	0
小 計	5	86	83	88	3
西中国部	広 島	25	22	22	3
	福 山	6	6	6	0
	呉	12	10	10	2
	東 広 島	8	8	10	0
	岩 国	13	13	13	0
	広 島 西	7	8	11	-1
	岩国みなみ	21	21	19	0
小 計	7	92	88	91	4
九州部	長 崎	6	6	7	0
	熊 本	32	32	32	0
	北 九 州	11	10	9	1
	福岡中央	14	16	18	-2
	熊本ジェーンズ	33	34	38	-1
	博多オーシャン	15	14	16	1
	八 代	8	8	8	0
	鹿 児 島	12	12	13	0
	熊本むさし	20	20	20	0
	熊本みなみ	22	22	24	0
	宮 崎	7	9	15	-2
	熊本ひがし	19	21	21	-2
	阿 蘇	17	17	18	0
熊本にし	26	26	28	0	
熊本ヤング	12	12	12	0	
小 計	15	254	259	281	-5
合 計	87	1,638	1,634	1,693	4

(連絡主事を含み、特別メネットは除く)

増減は7月1日との比較

ワイズメンズクラブ国際協会

第16回西日本区大会

THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

2013年6月22日(土) - 23日(日)

会場 名古屋能楽堂

THE WESTIN NAGOYA CASTLE

和^{ナゴヤ}や・から^{ワイズ}の輝き



6月21日 (金)		
09:00	西日本区理事杯	さなげカントリークラブ
19:00	前夜祭	ウェスティンナゴヤキャッスル
6月22日 (土)		
09:00	役員会・準備役員会	ウェスティンナゴヤキャッスル
10:30	年次代議員会・メネットアワー	ウェスティンナゴヤキャッスル
11:00	元理事懇談会	ウェスティンナゴヤキャッスル
	連絡主事の集い	名古屋能楽堂
11:30	大会受付開始	名古屋能楽堂
13:00	第16回西日本区大会1日目	名古屋能楽堂
19:00	懇親会	ウェスティンナゴヤキャッスル
21:30	フェローシップアワー	ウェスティンナゴヤキャッスル
6月23日 (日)		
08:00	聖日礼拝	ウェスティンナゴヤキャッスル
09:00	第16回西日本区大会2日目	ウェスティンナゴヤキャッスル
12:30	エクスカーション集合	ウェスティンナゴヤキャッスル

ホストクラブ / 四日市クラブ・名古屋クラブ

協力クラブ / 金沢クラブ・名古屋東海クラブ・名古屋南山クラブ・名古屋プラザクラブ
名古屋グランパスクラブ・津クラブ・金沢犀川クラブ 協働 / 名古屋 YMCA





もくじ

「先頭に立ってワイズメンの光を輝かそう、クラブで、地域で、国際社会で。」……………理事 成瀬 晃三 …………… 1
 ごあいさつ
 ワイズの輪は国際で! …………… 次期理事 高瀬 稔彦 …………… 4
 ワイズの未来に向かって前進 …………… 直前理事 浅岡 徹夫 …………… 5
 思い出多い上半期 最高の下半期へ…………… 書記 平野 実郎 …………… 5
 会計の思いを一つに繋げて…………… 会計 渡辺 真悟 …………… 5
 行政監事として「ワイズに自信を持って楽しんで」をモットーに…………… 行政監事 仁科 保雄 …………… 6
 ユースと共なるワイズ…………… 財政監事 鈴木 誠也 …………… 7
 日本YMCA同盟から
 皆様のご支援に感謝-3.11を風化させない取り組みを願う……………日本YMCA同盟総主事 島田 茂 …………… 7
 国際議員報告 変革のとき、2022年に向けて…………… 国際議員 岡野 泰和 …………… 8
 Empowering Young People…………… 日本YMCA同盟連絡主事 山根 一毅 …………… 9
 特別寄稿
 東日本大震災支援活動の近況報告-皆さまのご支援に感謝して……………東日本区仙台3クラブ実行委員会委員長 清水 弘一……………10
 事業活動報告
 Yサ・ユース事業はいよいよ本格的に活動を開始します! …………… Yサ・ユース事業主任 下村 明子……………12
 蚊帳で命を救う…………… 地域奉仕・環境事業主任 笠井 俊明……………13
 上半期を振り返って…………… EMC事業主任 米村 謙一……………14
 世界はつながる…………… ファンド事業主任 岡野 泰和……………15
 やっぱ楽しいワイズライフ…………… 交流事業主任 石田由美子……………16
 STEP参加報告…………… 大西慎太郎……………16
 広報事業報告…………… 広報事業主任 吉村 秀喜……………17
 メネット事業上半期報告…………… メネット事業主任 野村 靖子……………18
 部活動報告
 上半期事業報告及び下半期に向けて…………… 中部部長 荒川 文門……………19
 ワイズの〇を広げよう!…………… びわこ部部长 井之上温代……………20
 向き合った前期 整える後期…………… 京都部部长 船木 順司……………21
 半期を終えて…………… 阪和部部长 正野 忠之……………23
 動く今、変われ、中西部…………… 中西部部长 江見 淑子……………24
 楽しくなきゃワイズじゃない!!…………… 六甲部部长 上野 恭男……………25
 着実な活動が続く瀬戸山陰部…………… 瀬戸山陰部部长 福永 君二……………26
 ワイズ増員体制の本格化…………… 西中国部部长 赤羽 克秀……………27
 部長報告(7月~11月)…………… 九州部部长 福島 貴志……………28
 常置・特別委員会報告
 ワイズリーダーシップ開発委員会…………… ワイズリーダーシップ開発委員長 藤井 久子……………30
 委員会と活性化…………… 組織検討・安全対策委員長 乙坂 優次……………30
 JWFは皆様からの大切な献金です…………… JWF管理委員長 柴田 善朗……………31
 各部に似合った新体制2000推進チームへ…………… 西日本区2000推進チーム委員長 大岩 英人……………31
 これからのワイズ間コミュニケーションと情報収集について…………… 情報委員長 荒川 恭次……………32
 人は温かな善意で育つ…………… 理事事務局長 谷川 修……………33
 ワイズメンズワールド報告…………… ワイズメンズワールド翻訳編集委員長 野村 秋博……………33
 ターニングポイント!?!…………… ヒストリアン・文献保存委員長 大槻 信二……………34
 ぶれる…………… 区報編集委員長 三浦 克文……………34
 西日本区第1回役員会議事録…………… 35
 西日本区第2回役員会議事録…………… 38
 西日本区常任役員会議事録…………… 42
 編集後記…………… 43
 西日本区現勢…………… 44

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区

理事事務局 / 〒457-0805名古屋市長南区三吉町6-17

TEL 052-612-3370 FAX 052-611-9085

E-mail : tanikawa@shakaikan.com

西日本区事務所 / 〒532-0012大阪市淀川区木川東4-5-2 (株)新土野ビル3F

TEL 06-4805-0570 FAX 06-4805-0571

E-mail : info@ys-west.or.jp